

四国圏域生態系ネットワークの推進状況及び各地域の関連する取組

四国圏域生態系ネットワークの経緯・経過

- 2018年2月に、コウノトリやナベヅル・マナヅルをシンボルに、四国が一つとなった「魅力的な四国づくり」の実現を目的とした「四国圏域生態系ネットワーク推進協議会」が設立されました。各流域・地域レベルにおいても協議会・ワーキングが設立・設置され、2025年2月には新たに肱川流域生態系ネットワーク推進協議会が設立されました。

		2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)
四国圏域	四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 【2018年2月5日設立】	四国圏域の全体構想の検討・策定、圏域での取組状況等の共有・発信								
		・第1回協議会	・第2回協議会 全体構想の策定	・第3回協議会	・新型コロナウイルス感染症の影響により延期	・第4回協議会 (書面開催)	・第5回協議会	・第6回協議会	・第7回協議会	
	徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会 【2021年1月15日発展移行】	全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信								
		・第1回協議会	・第2回協議会 全体構想の策定	・第3回協議会	・第1回協議会 吉野川流域→徳島県全体へ発展移行	・第2回協議会 (書面開催)	・第3回協議会	・第4回協議会	・第5回協議会	・第6回協議会
	鳴門地区生態環境づくりワーキング 【2018年11月27日設置】	旧吉野川での自然再生によるコウノトリの生態環境づくりの検討								
			・第1～2回会議	・第3～4回会議	・第5～6回会議		・第7～8回会議			
	旧吉野川津慈地区管理運営あり方検討ワーキング 【2023年6月6日設置】	旧吉野川の自然再生地の管理運営の検討								
								・第1～3回会議		
	旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング 【2024年1月31日設置】	旧吉野川の自然再生地の整備・利活用の検討								
								・第1回会議	・第2回会議	・第3回会議
鳴門地区地域・人づくりワーキング 【2019年9月30日設置】	コウノトリ営巣地周辺の地域・人づくりの検討									
			・第1～2回会議	・第3～4回会議	・第5～6回会議	・第7～8回会議	・第9回会議	・第10回会議	・第11回会議	
那賀川流域地域ワーキング検討会 【2025年5月22日設置】										
									・第1～2回会議	
四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会 【2019年12月25日設立】	四万十川流域での取組状況等の共有・今後の方針の検討									
			・第1回協議会	・第2回協議会	・第3回協議会	・第4回協議会	・第5回協議会	・第6回協議会		
ワーキング 【2019年6月27日設置】	具体的な取組の検討・実施									
			・第1～4回会議	・第5～8回会議	・第9～12回会議	・第13～15回会議	・第16～18回会議	・第19～21回会議		
肱川流域生態系ネットワーク推進協議会 【2025年2月27日設立】										
								・第1回協議会		
水生生物ワーキング 【2025年3月21日設置】										
								・第1回会議	・第2～3回会議	
鳥類ワーキング 【2025年3月21日設置】										
								・第1回会議	・第2～3回会議	
活用・連携部会 【2026年1月30日設置】										
									・第1回会議	

第7回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会の概要

- 第7回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会（2025年2月26日・27日開催）では、会議及び香川県まんのう町のコウノトリ生息地の現地視察を行い、地域住民や団体と行政の連携・協働の重要性などを確認しました。

会議

開催日時 2025年2月26日（水）14:00～17:00

開催場所 高松サポート合同庁舎 南館1階 南101大会議室

主な意見・指摘等

- ◇まんのう町や西予市、鳴門市のような地域からボトムアップした活動など、地域と行政が協働して取り組むことが重要である。地域の住民や団体の取組を、行政がどのように支援できるか考えられることで、各地域の取組もさらに推進していこう。
- ◇豊かな自然の維持と人の営みを両立させていくには、地域の方との協働が重要になる。地域との協働という観点で、この協議会の取組の盛り上げりに期待したい。
- ◇ため池は、鳥類にとっても重要な生息地である。鳥類の生息地の保全とため池の維持管理が両立できるように、ため池への太陽光パネルの設置の在り方を検討することが必要である。
- ◇コウノトリやツル類の観察マナーの普及や見守り活動が各地で実施されていて、成功や失敗などの事例が蓄積されていると思う。各地の事例をこの協議会で共有できるとよい。
- ◇本協議会の存在を周知していくことが必要である。

現地視察

開催日時 2025年2月27日（木）10:30～12:00

場所 香川県まんのう町 [コウノトリ営巣場所、土器川（香川県管理区間）、亀越池]

主な意見・指摘等

- ◇まんのう町では、コウノトリの飛来当初から地域住民や団体と町が連携してきた。地域住民や団体としても町との連携がなければ活動は難しく、町としても地域住民や団体が積極的に活動しているおかげでとても助かっている。
- ◇まんのう町で営巣・繁殖しているコウノトリの親鳥は、基本的に営巣地から近い範囲で、食物を採っている。
- ◇土器川の淀みなどで、コウノトリがカエルやフナといった生物を採っている。
- ◇ため池は、冬場に水位を下げるとコウノトリが食物を採りやすくなる。まんのう町でも、コウノトリがため池を利用している。
- ◇兵庫県播磨地域では、いなみ野ため池ミュージアムという組織があり、コウノトリのために、ため池の水位を冬場に落とす取組を推進している。



参考：コウノトリ・ツル類の観察マナーの普及や見守り活動の事例

- 第7回四国圏域生態系ネットワーク推進協議会（2025年2月26日開催）において「コウノトリやツル類の観察マナーの普及や見守り活動の事例を共有できるとよい」との指摘がありました。各地域での活動事例を下記に記します。

徳島県鳴門市

- ◇鳴門市により、コウノトリの営巣地周辺に、観察者用の駐車場と観察スペースが設置されている。また、看板が設置され、コウノトリの繁殖や地域住民に配慮する観察マナーの順守が呼びかけられている。
- ◇コウノトリの営巣地周辺の農業者により、迷惑駐車を防ぐための看板が自主的に設置されている。
- ◇鳴門市により、市のウェブサイトで、コウノトリの繁殖状況の情報発信や、観察マナーの普及啓発が行われている。

香川県まんのう町

- ◇まんのう町により、コウノトリの営巣地付近がコウノトリ営巣地保護区域とされており、地域住民や関係者以外の立ち入りを制限している。看板が設置され、協力の呼びかけが行われている。
- ◇2024年に結成された「まんのう町コウノトリを見守る会」により、パトロールが実施されている。
- ◇まんのう町により、町の広報誌やウェブサイトで、コウノトリの繁殖状況の情報発信や、観察マナーの普及啓発が行われている。

愛媛県西予市

- ◇西予市により、ツル類が飛来する水田が「ツル渡来重要エリア」に設定され、農作業以外の通行を制限している。看板が設置され、協力の呼びかけが行われている。
- ◇西予市では、2016年から「ツル・コウノトリ見守り隊」が設置されている。任命された住民により、見守り活動や観察マナーの呼びかけが行われている。

高知県四万十市

- ◇四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会において「四万十ツルの観察マナー」が策定されている。
- ◇四万十市により、ツル類の飛来時期に合わせて、市の広報誌や公式LINEで観察マナーの普及が行われている。
- ◇四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会において、見守り活動の実施体制や活動ルールの検討が進められている。



日本国内のコウノトリ・ツル類の生息の現況

- 四国圏域生態系ネットワークでは、指標種・シンボルとしてコウノトリ・ツル類（ナベヅル、マナヅル）を設定しています。
- コウノトリは、保護増殖と放鳥が進められ、日本国内の野外個体数が2025年に500羽を超え、繁殖地も増加しています。一方で、人為的な要因による事故の発生も増えており、対策が必要となっています。
- ツル類は、鹿児島県出水市に大規模な越冬地があります。しかし、一地域に集中して越冬しているため、大量死を招くリスクがあり、新たな越冬地の形成に向けた取組を進めることが必要となっています。

日本国内のコウノトリの生息の現況



- ◇1971年に日本の野生コウノトリは絶滅したが、その後、兵庫県豊岡市でコウノトリの保護増殖と放鳥が進められた。現在、国内の野外コウノトリは順調に増加が見られ、2025年8月31日現在で野外個体数は558羽となっている（兵庫県立コウノトリの郷公園の公表資料）。国内繁殖地も拡がりが見られ、2025年には、全国14府県41巣（四国では徳島県鳴門市1巣、香川県まんのう町1巣）から97個体の幼鳥が巣立った。
- ◇コウノトリの野外個体数が増加する一方で、防獣ネットや防鳥用テグスへの絡まり、送電線での感電など、事故に遭い死亡したり、救護されたりするケースも増えてきている。

日本国内のツル類（ナベヅル・マナヅル）の生息の現況



- ◇かつては日本国内の各地にナベヅル・マナヅルの越冬地があったが、その多くは消滅している。鹿児島県出水地方では、保護区の設置、給餌等の長年の努力により、1万羽以上のナベヅル・マナヅル等のツル類が越冬している。今期も13,319羽のツル類が出水市内へ渡来している（2025年12月20日時点）。
- ◇出水市でのツル類の集中は、感染症等の発生時に大量死を招くリスクがある。2022年度には、ツル類が高病原性鳥インフルエンザに感染し、1,500羽以上が死亡・衰弱し回収・收容された。環境省、鹿児島県及び出水市は、ツル類の分散化を図る一手段として、出水での給餌量を段階的に削減・調整する取組を2020年度より行っている。

- 2017年～2024年に、コウノトリの飛来は四国4県で確認されており、1ヶ月以上の滞在が確認されている地域もあります。コウノトリの繁殖は、徳島県鳴門市、香川県まんのう町において確認されています。

希少種情報につき、委員のみ

- 2025年に、四国4県へコウノトリが飛来しており、徳島県鳴門市、香川県まんのう町でコウノトリが繁殖に成功しました。徳島県鳴門市では、2025年6月にコウノトリ1ペアの巣から2羽のひなの巣立ちが確認され、2017年から9年連続の繁殖成功となりました。香川県まんのう町では、2025年4月にコウノトリ1ペアの巣から2羽のひなの巣立ちが確認され、2023年から3年連続の繁殖成功となりました（1羽は巣立ち後死亡）。

希少種情報につき、委員のみ

- 2017年度～2024年度に、ツル類（ナベヅル、マナヅル）の飛来は四国4県で確認されており、越冬が確認された地域もあります。また、国が管理している吉野川、那賀川、肱川、物部川、四万十川の河川区域の砂州をツル類がねぐらとして利用したことが確認されています。

希少種情報につき、委員のみ

- 今期（2025年10月～2026年1月）に、四国4県へツル類（ナベヅル）が飛来しています。また、愛媛県西条市でナベヅル5羽、愛媛県西予市でナベヅル11羽の越冬が確認されました。

希少種情報につき、委員のみ

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

- 吉野川流域では、2017年10月に「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」を設立し、取組を推進してきた。コウノトリ・ツル類が徳島県内に広く飛来していること、また、徳島県全域で環境保全への機運が高まっていることから、徳島県内での関連する取組の情報共有・連携を図ることを目的に、2021年1月に、吉野川流域から徳島県全域を対象とした「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」へと発展移行した。

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク形成の目的

- 1 コウノトリ・ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全・再生による生態系ネットワークの形成
- 2 コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現

「徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク全体構想」(2021年1月)

		2017年度 (平成29年度)	2018年度 (平成30年度)	2019年度 (令和元年度)	2020年度 (令和2年度)	2021年度 (令和3年度)	2022年度 (令和4年度)	2023年度 (令和5年度)	2024年度 (令和6年度)	2025年度 (令和7年度)
圏域／流域の空間スケールに応じた生態系ネットワークの形成	四国圏域 四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 【2018年2月5日設立】	四国圏域の全体構想の検定・策定、圏域での取組状況等の共有・発信								
		・第1回協議会	・第2回協議会 全体構想の策定	・第3回協議会	・新型コロナウイルス感染症の影響により延期	・第4回協議会 (書面開催)	・第5回協議会	・第6回協議会	・第7回協議会	・第8回協議会
	徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会 【2021年1月15日発展移行】	全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信			全体構想の検討・策定、流域での取組状況等の共有・発信					
		・第1回協議会	・第2回協議会 全体構想の策定	・第3回協議会	・第1回協議会 吉野川流域→徳島県全体へ発展移行	・第2回協議会 (書面開催)	・第3回協議会	・第4回協議会	・第5回協議会	・第6回協議会
	鳴門地区生息環境づくりワーキング 【2018年11月27日設置】 【2023年1月10日解散】		旧吉野川の自然再生によるコウノトリの生息環境づくりの検討							
			・第1～2回会議	・第3～4回会議	・第5～6回会議		・第7～8回会議			
	吉野川流域↓徳島県全体 旧吉野川津慈地区管理運営あり方検討ワーキング 【2023年6月6日設置】 【2023年11月16日～休止】							旧吉野川の自然再生地の管理運営の検討		
							・第1～3回会議			
旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング 【2024年1月31日設置】							旧吉野川の自然再生地の整備・利活用への検討			
							・第1回会議	・第2回会議	・第3回会議	
鳴門地区地域・人づくりワーキング 【2019年9月30日設置】			コウノトリ営巣地周辺での地域・人づくりの検討							
			・第1～2回会議	・第3～4回会議	・第5～6回会議	・第7～8回会議	・第9回会議	・第10回会議	・第11回会議	
那賀川流域地域ワーキング検討会 【2025年5月22日設置】							那賀川流域における自然環境の保全再生		地域活性化の検討	
									・第1～2回会議	

徳島県流域生態系ネットワークの活動

- 「第6回徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」を2026年2月6日に開催し、取組状況の報告と目標に対する取組の進捗及び今後の課題について意見交換を行った。
- 部会の「第3回旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング」を2026年1月19日に、「第11回鳴門地区地域・人づくりワーキング」を2026年1月21日に開催している。

● 第6回 徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

取組概要

コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成による地域活性化及び経済振興の実現を図るための効果的方策の検討と取組の推進について検討

開催概要

◇日時 2026年2月6日 15:00～17:00

◇主な内容

- ・規約について
- ・徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワークの取組状況について
- ・短期目標に対する取組の進捗及び課題と今後の取組について



第6回 徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

● 第3回 旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング

取組概要

旧吉野川津慈地区(自然再生整備地)のよりよい湿地環境の創出並びに利活用や管理運営の具体化に向けた検討

開催概要

◇日時 2026年1月19日 14:00～16:00

◇主な内容

- ・旧吉野川津慈地区の現地確認(整備状況、モニタリング調査結果等)
- ・旧吉野川津慈地区のモニタリング実施計画(案)について
- ・旧吉野川津慈地区の利活用について

● 第11回 鳴門地区地域・人づくりワーキング

取組概要

コウノトリが営巣・繁殖した環境を活かした魅力的な地域づくりの実現に向けた情報共有・意見交換

開催概要

◇日時 2026年1月21日 14:00～16:00

◇主な内容

- ・地域・人づくりに関連する取組状況について
- ・大規模集客イベントを見据えた普及啓発・情報発信の進捗について
- ・旧吉野川津慈地区の利活用について

コウノトリの生息環境づくり

■短期目標(2020～2025年度)

吉野川流域で、採食環境と営巣環境の保全整備が継続して行われ、複数ペアのコウノトリが繁殖している。また、那賀川・勝浦川流域周辺でも、採食環境と営巣環境の保全整備が進められている。

■取組状況(2020～2025年度)

● 採食環境の保全整備:

旧吉野川での自然再生による湿地環境づくりや、農薬・化学肥料の使用量を低減した農業の推進、湿地ビオトープの整備・運営等の取組が、吉野川や那賀川・勝浦川の流域及びその周辺で継続的に進められている。

● 営巣環境の保全整備・人による悪影響の緩和:

人工巣塔化した電柱の管理や観察者用の駐車場・観察スペースの設置・管理、観察マナーの啓発等が継続して行われている。

● 徳島県内では、コウノトリの飛来が多数確認されている。吉野川流域において、複数ペアによる繁殖には至っていないが、2017年から9年連続で継続して繁殖に成功している。



希少種情報につき委員のみ

旧吉野川津慈地区の試験施工と



湿地ビオトープの整備()

[写真提供: 認定NPO法人とくしまコウノトリ基金]



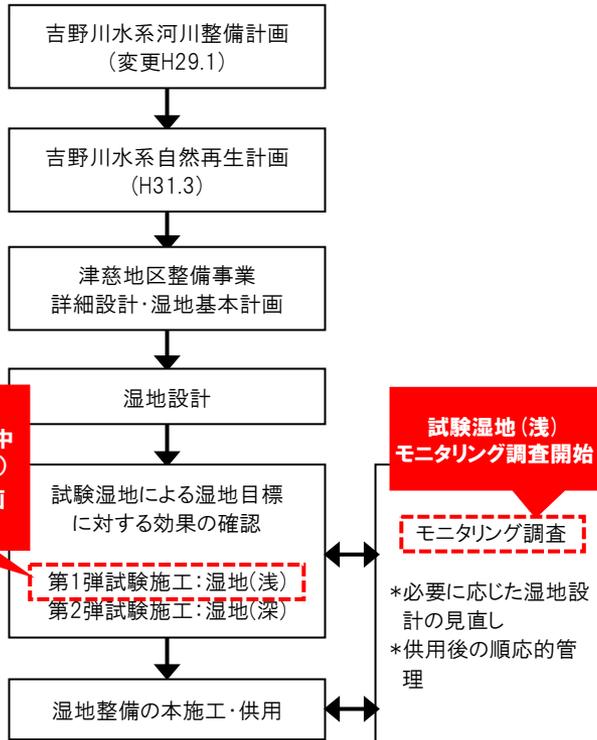
電柱巣塔の管理

[写真提供: 認定NPO法人とくしまコウノトリ基金]

希少種情報につき取扱い注意

旧吉野川津慈地区湿地整備の概要

- 旧吉野川津慈地区では、治水対策のための河道掘削が計画されている。周辺にコウノトリの営巣地が位置していることから、河道掘削とあわせて、コウノトリの採食場となるような湿地環境を創出することを目標としている。
- 令和6(2024)年度に第1弾試験施工を実施し、湿地(浅)が完成。令和7(2025)年度から、モニタリング調査を開始した。



湿地環境づくりの手順

希少種情報につき委員のみ

津慈地区周辺の状況



整備する湿地（本湿地）のイメージ

ツル類の生息環境づくり

■短期目標(2020～2025年度)

ツル類の安定したねぐら環境の確保に向けて、吉野川、那賀川、海部川等の河川区域での砂州や干潟の保全・再生及び人の利用の調整、周辺の農地での冬期湛水やため池の冬期の水位調整等が進められている。河川の周辺地域で、採食環境の保全整備が進められている。

■取組状況(2020～2025年度)

● ねぐら環境の保全整備:

吉野川、那賀川、海部川等の河川区域での、レキ河原の保全・再生、浅瀬の整備、ねぐら環境に配慮した河道掘削や、特定外来生物対策等の他、周辺の農地での水位調節による水域の創出等、ねぐら環境の確保に向けた取組が行われている。

● 人による悪影響の緩和:

河川敷への看板設置による人や車両立入の自粛要請が行われている。

● 採食環境の保全整備:

農地等、河川の周辺地域で、二番穂の刈残しや、農薬・化学肥料の使用量を低減した農業の推進、湿地ビオトープの整備等、採食環境の確保に向けた取組が進められている。



ナベヅルのデコイの設置実験(大島田地区)
[写真提供: 認定NPO法人とくしまコウノトリ基金]



河川敷への啓発看板の設置
[過年度協議会使用より引用]

地域・人づくり

■短期目標(2020～2025年度)

先行取組地域の農業関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類との共生に資する農産物やその加工品を認証する制度が拡充されている。

先行取組地域の観光関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類を活かした観光に向けた受け入れ体制や施設整備が促進されている。

コウノトリ・ツル類が各地域で受け入れられ、多様な主体の連携・協働の取組と地域間の交流が行われている。また、2025年大阪・関西万博等の機会を通して、コウノトリ・ツル類と共生する取組がアピールされ、徳島県や先行取組地域の認知度が上がっている。

■取組状況(2020～2025年度)

● 農業振興:

既存の「鳴門市コウノトリブランド認証制度」等が継続して運用されている。新たな商品登録や制度は拡充されていないが、コウノトリ認証商品をはじめとする農産物やその加工品が多くの主体により情報発信・販売されている。

● 観光振興:

ソフト面、ハード面においてコウノトリを活かした観光の受け入れ体制の整備が進められている。

● 理解と関心の醸成:

各主体により、地域住民や来訪者等への普及啓発や情報発信が行われている。主体の連携によるれんこんの掘りとり体験等のイベントや地元小学校への環境学習の支援が実施されている。

大規模集客イベントのインバウンド対応として、英語版の普及啓発パネルや動画、Q&A資料が作成されたが十分な活用がされていない。一方で、今後の大型イベントに向けた取組として、広報資料等の作成・活用が検討されている。



れんこんを活用したお粥やカレー・コウノトリのお酒「朝と夕」
[過年度協議会使用より引用]



れんこん掘り体験
[画像・写真提供:アオアヲナルトリリゾート]

中期目標に向けた取組の方向性(案)

中期目標 ～2030年	
<p style="text-align: center;">生息環境づくり</p> <p>【コウノトリ】 吉野川流域で、3～5ペアのコウノトリが繁殖し、安定した生息地となっている。那賀川・勝浦川流域周辺でも、コウノトリが繁殖している。また、徳島県内の他地域においても、採食環境と営巣環境の保全整備が進められている。</p> <p>【ツル類】 徳島県内へのツル類の渡来、越冬が続いている。吉野川、那賀川、海部川等の河川区域及び周辺地域で、ねぐら環境、採食環境の保全整備、人の利用の調整が継続して行われている。また、徳島県内の他地域においても、ねぐら環境、採食環境の保全整備が進められている。</p>	<p style="text-align: center;">地域・人づくり</p> <p>○徳島県内の各地で関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類との共生に資する農産物やその加工品のブランド化が行われ、国内外への流通・販売が展開されて、経済効果を上げている。</p> <p>○徳島県内の各地で関係者の理解が進み、コウノトリ・ツル類を活かした観光が行われ、経済効果を上げている。</p> <p>○多様な主体の連携・協働の取組と地域間の交流がさらに拡大している。コウノトリ・ツル類との共生に取り組む徳島県や各地域の地域イメージが向上し、地域の関係人口が増えている。</p>

これまで(短期目標 2020～2025):主に、各団体・組織がそれぞれの活動場所で、それぞれの取組を推進してきた。



これから(中期目標 2026～2030):これまでの取組を継続しつつ、中期目標を見据えて協議会構成員での連携を強化する必要がある。

- ① 主体間の連携促進を図るため、協議会(事務局)が中心となり、各主体と連携し、組織的に取組む「重点プログラム」を設定し、取組や連携の活性化を図る。

(取組案):湿地整備体験会や外来種駆除会の開催、環境学習の支援 等

- ② それぞれの取組をさらに拡大・拡充していく。
協議会(事務局)が中心となり、取組の拡大・継続・活性化のための仕組み・仕掛け(連携ツールや取組事例や普及啓発用資料)の検討、試行を行う。

(取組案):情報共有ツールやポータルサイトの構築 等

各主体と連携した「重点プログラム」

A: 湿地整備体験会の開催

【目的】①地域での自然再生活動を行う機会をつくり、生物の生息生育環境の保全・創出への理解・関心や効果的な自然再生手法の理解を図る。②自然再生により、生物多様性の向上を図る。

【内容】自然再生整備箇所周辺等での自然再生(湿地整備やビオトープ整備の体験)を、周辺の地域関係者で実施する。



B: 外来種駆除会の開催

【目的】①現地での駆除体験を通して、外来種の存在や影響、身近にある生物の生息環境や保全への理解・関心や効果的な駆除方法の理解を図る。②外来種を駆除し、生物多様性の向上を図る。

【内容】自然再生整備箇所周辺等の外来種駆除作業(主に植物の抜き取り)を、周辺の地域関係者で実施する。



拡大・継続・活性化のための仕組み・仕掛けづくり

C: 情報共有ツールの構築

【目的】①各自治体、活動団体等の生態系NWに関する活動の情報を共有し、連携や参加者の増加等、活動の拡大を図る。

【内容】各自治体、活動団体等のメンバーのイベント情報や活動報告を簡易に共有できる、ツール(メーリングリスト、SNS活用等)を作成する。



D: ポータルサイトの構築

【目的】①各自治体、活動団体等の生態系NWに関する活動の情報を集約することで、情報共有や連携の促進を図る。②広報資料や技術資料を掲載することで協議会内で広く情報を共有し、連携や参加者の増加等、活動の拡大を図る。

【内容】各自治体、活動団体等のイベント情報や活動報告を簡易に共有でき、知りたい情報を簡易に検索できるサイトを作成する。

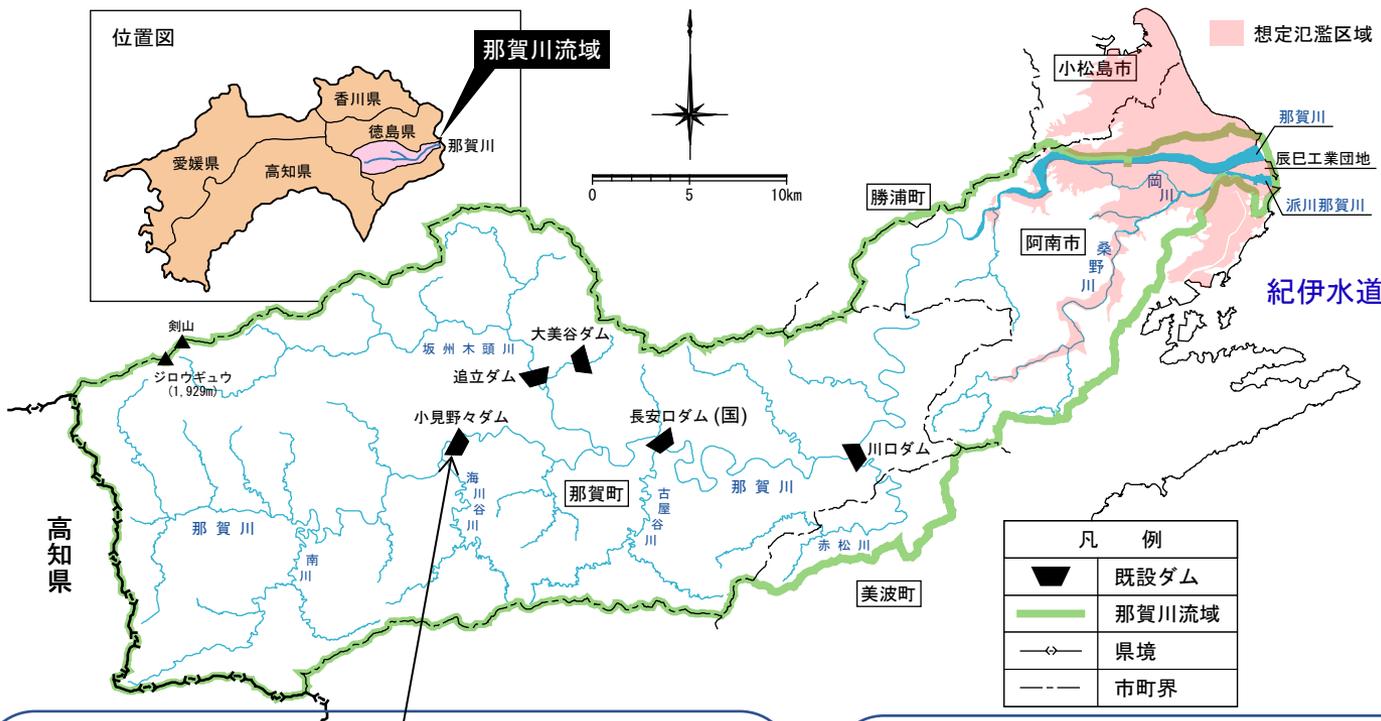


那賀川流域における生態系ネットワークの取組

那賀川河川事務所

令和8年2月16日

- 幹川流路延長: 125km、流域内人口約4.4万人(氾濫区域内人口約6.8万人)、流域面積874km²の約86%が森林
- 流域の主な産業: 製紙、化学工業製品、製材、木工等



上流



中流

下流

那賀川流域の自然環境(魚類・鳥類)

■上流域の概要(川口ダム上流)

鳥類ではヤマセミ、ブッポウソウ、カワガラス等が生息し、猛禽類の繁殖も確認されている。また、水域にはアマゴ、アユ、タカハヤ等の魚類が生息しており、支川丈ヶ谷川では教育機関や自治体等との協同により地元児童を対象にしたアユの産卵場づくりを実施している。



ヤマセミ



ブッポウソウ



アユ



アマゴ

■中流域の概要(川口ダム～十八女橋)

鳥類ではセキレイ類、サギ類等が生息している。また、水域にはアユ、オイカワ、ウグイ等の魚類が生息している。



キセキレイ



オイカワ



ウグイ

■下流域の概要(十八女橋～潮止め堰)

水域にはアユ、ウグイ、サツキマス、ヨシノボリ類等の魚類が生息し、瀬はアユの産卵場となっており、自然再生事業により瀬環境の保全・創出を図るとともに地元小学生によるアユの産卵場づくりを実施している。また、河原にはコアジサシやシロチドリなどの鳥類が生息しており、一部の砂州では、ねぐらをとるナベヅルも確認されている。



コアジサシ



カジカ(小卵型)



ナベヅル



アユ

■汽水域の概要(潮止め堰～河口)

河口付近では干満差による干潟が出現し、シオマネキや固有魚などの貴重種が確認されていることから、阿南市生物多様性ホットスポットに選定されている。また、魚類ではマハゼ、ボラ、スズキ等が生息し、鳥類ではミサゴなどが生息しており、シギ、チドリ類等の渡来地となっている。



シギ・チドリ



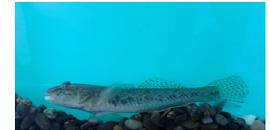
シオマネキ



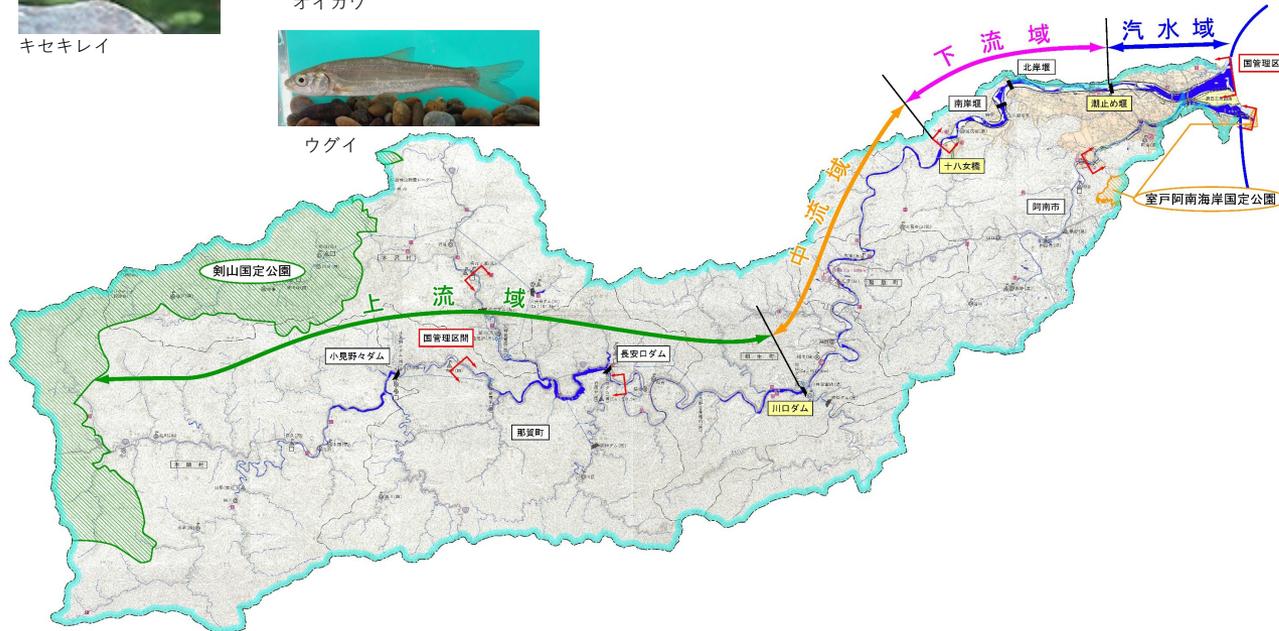
ミサゴ



スズキ



マハゼ



■桑野川の概要

上流の水域には県の天然記念物であるオヤニラミが生息し、中下流域ではヤリタナゴ、ヌマムツ等緩流を好む魚類が多い。

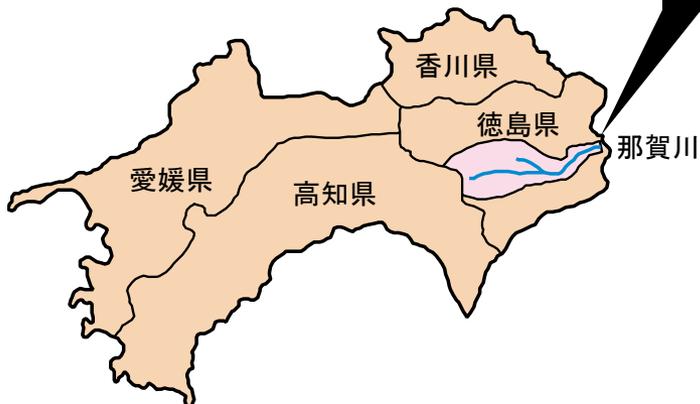


オヤニラミ



ヤリタナゴ

流域図



那賀川流域

- 四国では、ツル類（主にナベヅル）の飛来記録が吉野川流域、那賀川流域、四万十川流域に集中している。
- 那賀川流域においては、2008年度よりナベヅルの飛来が確認されており、2015年度には34羽、近年では2023年度に最大7羽が飛来し、6羽の越冬が確認されている。
- 那賀川では、周辺の水田で採餌し、河川内の砂州をねぐらとして利用している。

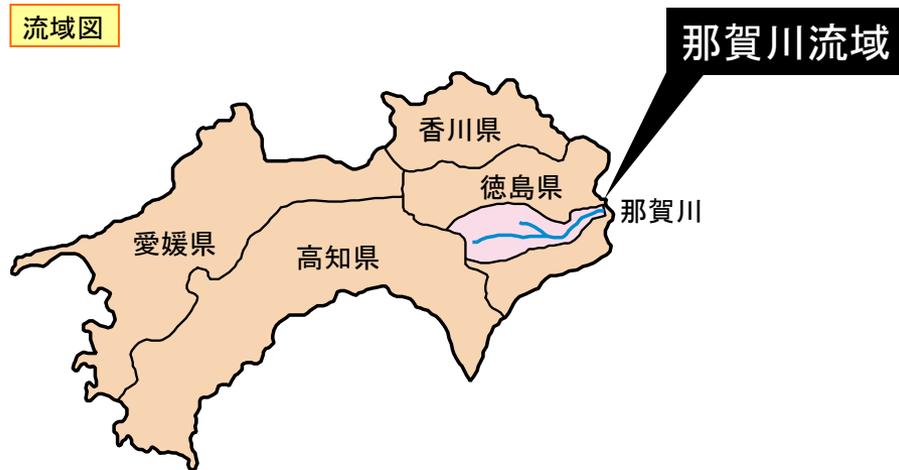
希少種情報につき、委員のみ

那賀川流域におけるツル類の飛来状況



那賀川でねぐらをとるナベヅル（2015年度の越冬時）
撮影日：2015. 12. 24、写真提供：日本野鳥の会

流域図



- 四国では、四万十川流域、吉野川流域に集中しているものの、那賀川流域の周辺においても確認記録がある。
- 那賀川流域では、2013年からコウノトリの飛来が確認されており、良好な水田環境が残されていることから、主に周辺の水田地帯へ飛来している。
- 近年では、2022年度に阿南市 、小松島市 で3羽の飛来が確認されている。

希少種情報につき、委員のみ

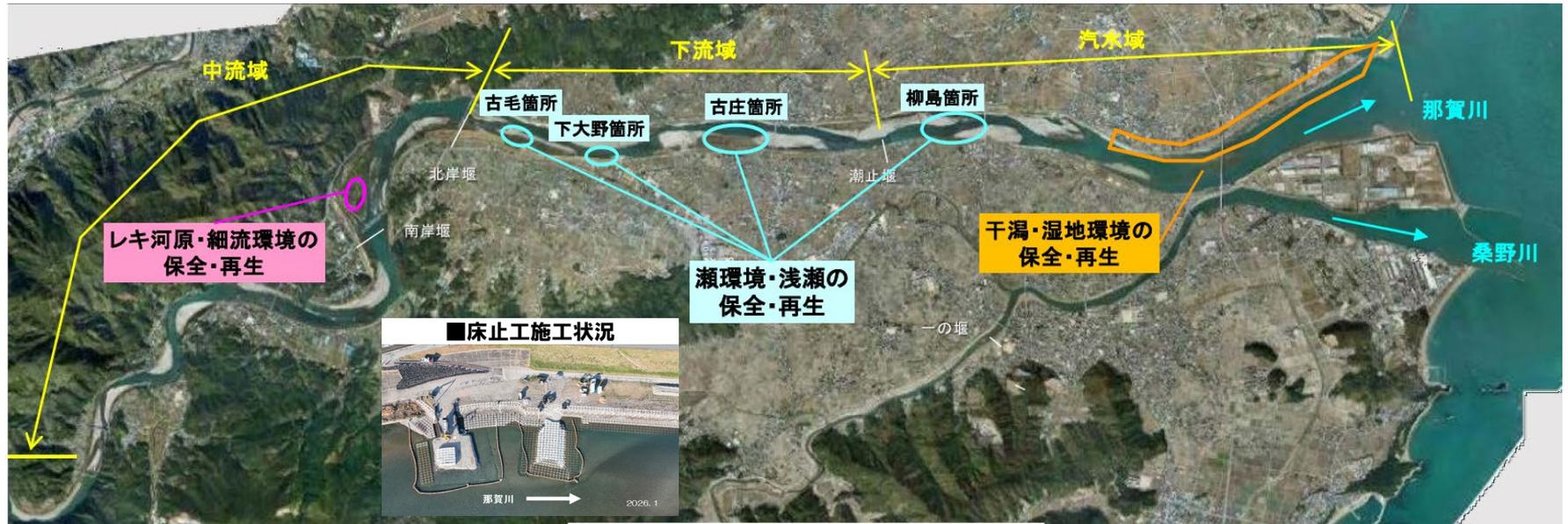


環境保全型農業に取り組む水田に飛来したコウノトリ
[徳島県小松島市
写真提供：小松島市

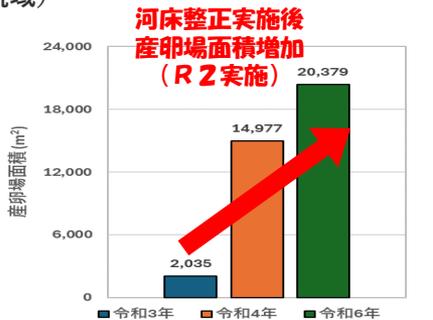
那賀川流域周辺におけるコウノトリの飛来状況

那賀川流域の自然環境(アユ)

- 那賀川では古くからアユ漁業が盛んであり、那賀川を代表する水産資源である。
- 近年では、水質・河床材料の変化による餌環境の悪化や生息場・産卵場となる瀬の減少が課題となっており、アユの産卵が減少している。
- そのため「那賀川自然再生事業」では下流域を中心に、河床整正及び床止工を設置することで、アユ産卵場となる瀬環境の維持・創出に努めている。
- また、上流域においても徳島大学や自治体、地元小学校等が連携した、アユの産卵場づくりが進められている。



■アユの産卵場調査 (下流域)



アユ産卵場面積の調査結果 (古庄箇所)

■アユの産卵場づくり (下流域)



出前授業：大野小学校

■アユの産卵場づくり (上流域)



写真提供：新潟大学河口教授

那賀川流域を主体とした生態系ネットワーク

徳島県では、多様な主体が連携・協働し、コウノトリ・ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成による地域活性化及び経済振興の実現を図るための取組の推進を目的とした、徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会が設置されており、令和7年度、那賀川流域における地域ワーキングとして**那賀川流域地域ワーキング検討会**が発足し取組を進めている。

徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会

- 指標種：コウノトリ・ツル類
- 事務局：徳島河川国道事務所・那賀川河川事務所・徳島県

- 「吉野川流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会」の委員を中心に、コウノトリ・ツルの飛来地である県内自治体首長が参加。
- 吉野川流域・那賀川流域等の県内他流域を加えた、「徳島県流域生態系ネットワーク全体構想」を策定。



専門部会 「地域・人づくり」 「生息環境づくり」

・地域ワーキングでの検討及び事業実施における専門的知見からの支援

支援

地域ワーキング(各流域において複数の設置を目指す)

徳島河川国道事務所

鳴門地区地域ワーキング

先行モデル

・事業を具体的に推進するために、地域の課題に関する検討を行うために複数のワーキングを設置。

- 鳴門地区地域・人づくりワーキング
- 旧吉野川津慈地区管理運営あり方検討ワーキング
- 旧吉野川津慈地区湿地環境づくりワーキング

那賀川河川事務所

那賀川流域地域ワーキング検討会

・那賀川流域生態系ネットワークは、鳴門地区と同様に、上部組織である徳島県流域コウノトリ・ツルの舞う生態系ネットワーク推進協議会の地域ワーキングとして位置づけ、生態系ネットワークの形成を図る。

令和7年度：那賀川流域地域ワーキング検討会、コアワーキングを設置

R7.5月

- 第1回 那賀川流域地域ワーキング検討会
・ 取組範囲、目標、方向性（案）、各回メンバーについて説明。

R7.5~6月

- 第1回 鳥類・魚類コアワーキング
・ メンバー間での情報共有、今後の取組についての意見照会。

R7.9月

- 第2回 鳥類・魚類コアワーキング
・ 取組案の検討。（取組内容・目標、場所・時期、役割分担、課題等）

R7.12月

- 第2回 那賀川流域地域ワーキング検討会
・ 各団体における取組内容を取りまとめ、実施できるものから実施。

令和8年度：那賀川流域地域ワーキング検討会、コアワーキングを継続

- ・ 具体目標や取組内容を示した「行動計画（案）」を策定。
- ・ 幅広く広報するためのロゴマーク・キャッチコピーの設定。
- ・ 各団体において取組を実施。



那賀川流域地域ワーキング検討会



鳥類コアワーキング



魚類コアワーキング

今後の取組(鳥類コアワーキング)

取 組			
分類	指標種・シンボル種の候補	取組目的	取組内容
生息環境づくり	ナベヅル	ねぐら環境の創出	人・車両の立ち入りによる影響の軽減
			ねぐらの創出(堤外地)
			ねぐらの創出(堤内地)
		採食環境の創出	採食場の創出(水田)
	ナベヅルの誘導	デコイ(ナベヅルの模型)の設置	
	コウトリ	営巣環境の創出	人工巣塔の設置
		採食環境の創出	堤外地での多様な環境の創出
			採食環境の創出(水田)
	ミサゴ	営巣環境の創出	人工巣台の作製・設置
	プッポウソウ	営巣環境の創出	巣箱架け
ヤマセミ	営巣環境の創出	河川事業、道路事業等に合わせた営巣環境(土壁等)の創出	
		営巣用の巣穴の設置	
地域・人づくり(地域活性化)	コウトリ	生きものに配慮した農法の推進による環境ブランド化	有機農産物の利用促進による環境ブランド化(稲作における有機及び特別栽培の促進と面積拡大 など)
	ナベヅル		
	コウトリ、ナベヅル 等	身近な野鳥に関する普及・啓発を通じた地域の魅力向上	「市町村の鳥」の選定を通じた地域の魅力向上
	鳥類全般		
	自然資源を活用した上下流の交流		



ナベヅルへの人・車両の立ち入りによる影響の軽減
※啓発看板の設置



ナベヅルのねぐらの創出(堤内地)
※冬季湛水+立体デコイ設置



ナベヅルの採食場の創出(水田)
(イメージ写真)
※二番穂の確保

今後の取組(魚類コアワーキング)

取 組			
分類	指標種・シンボル種の候補	取組目的	取組内容
生息環境づくり	アユ	産卵環境の再生	産卵場の造成(上流域)
			産卵環境の再生(上流域)
産卵環境の再生(下流域)			
		取組効果の把握	取組効果の定量的な把握
	生物全般	水源林の保全・管理	水源林の生物多様性の向上
地域・人づくり(地域活性化)	アユ、アマゴ、サツキマス、ニホンウナギ、ハゼ類等	普及・啓発(アユ等に関する体験機会づくり)を通じた地域の魅力向上	食体験の機会提供を通じた地域の認知度や魅力の向上
			体験型のイベントや学習機会の提供を通じた保全意識、郷土愛の醸成
地域・人づくり(地域活性化)	アユ、アマゴ、サツキマス、ニホンウナギ、ハゼ類等	普及・啓発(アユ等に関する体験機会づくり)を通じた地域の魅力向上	関連情報の発信を通じた地域の認知度や魅力の向上
			アユ



アユの産卵場づくり
※阿南市立大野小学校
(令和7年10月16日)



環境学習・自然体験イベント
(イメージ写真)
※アユの石焼き体験
(令和7年8月23日)

那賀川流域地域ワーキング検討会の今後の動き

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度
那賀川流域地域ワーキング検討会 【令和7年5月22日設置】	第1回 (5/22) 第2回 (12/2) <ul style="list-style-type: none"> ・コアワーキングの検討状況の共有 ・取組内容の決定 	開催（年1回程度） <ul style="list-style-type: none"> ・コアワーキングの検討状況及び取組状況の確認 ・コアワーキングの検討状況及び取組状況に応じて今後の取組について変更・決定 				
コアワーキング						
鳥類コアワーキング 【令和7年5月26日設置】	第1回 (5/26) 第2回 (9/16) <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組内容の検討 	開催（年1～2回程度） <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組の実施 ・取組の実施状況を踏まえた具体的な取組の検討（変更・新規） ・検討会に対して検討状況及び取組状況の報告 				
魚類コアワーキング 【令和7年6月4日設置】	第1回 (6/4) 第2回 (9/18) <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組内容の検討 	開催（年1～2回程度） <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組の実施 ・取組の実施状況を踏まえた具体的な取組の検討（変更・新規） ・検討会に対して検討状況及び取組状況の報告 				

四国圏域生態系ネットワーク推進協議会（2月16日開催）

- ・令和8年度に策定予定の（仮称）行動計画の対象期間に基づき、当面5年間のスケジュールとして想定
- ・令和13年度以降は検討会・コアワーキングは、「（仮称）行動計画」の進捗状況を勘案し、開催形態（検討事項、開催頻度等）を検討・決定することを想定

四万十川流域生態系ネットワーク形成の取組

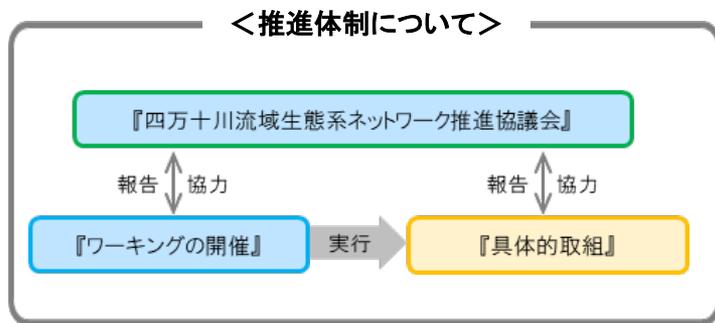
四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会

四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会（2019年12月設立）では、ツル類を指標種に設定し、2021年度に四万十川流域生態系ネットワーク全体構想を策定しました。全体構想では、2050年を到達目標として、短期目標、中期目標を設定しています。今年度は、短期目標の最終年度にあたるため、達成状況を踏まえ、「四万十川流域生態系ネットワーク 中期目標の達成に向けた取組（2026年～2030年）」を策定しました。



「第7回四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会」の開催の様子

協議会構成員
四万十市 市長
四万十市教育委員会 教育長
四万十市区長会 会長
中村商工会議所 会頭
一般社団法人四万十市観光協会 会長
一般社団法人中村青年会議所 理事長
四万十つるの里づくりの会 会長
四万十川自然再生協議会 会長
高知野鳥の会 会長
国土交通省 中村河川国道事務所 所長



四万十川流域生態系ネットワーク形成の目的

- 1 ツル類を指標とした河川と取り巻く地域が一体となった自然環境の保全と再生による生態系ネットワークの形成
- 2 ツル類を指標とした生態系ネットワークの形成を通じた地域活性化及び経済振興の実現

短期目標（～2025年）	中期目標（～2030年）	到達目標（～2050年）
--------------	--------------	--------------

ツル類の安定した越冬環境づくり

これまで取組が行われてきた江ノ村地区、ツル類の飛来実績が多い森沢・間地区において、農業者の理解、協力を得て、冬期湛水等のねぐら環境の創出や、二番穂の確保等の採食環境の創出が行われている。

また、地域住民等の理解、協力を得て、ツル類への人為的なストレスが低減されている。

これらの取組により、四万十川流域で越冬できるツル類の個体数が増えている。

四万十市内全域において、ねぐら環境・採食環境の創出、人の利用の調整が継続されている。

流域内のツル類の生息ポテンシャルが高い地区でも、農業者や地域住民等の理解・協力を得ながら、生息環境づくりが進められている。

これらの取組により、四万十川流域でツル類の生息を支える自然環境が安定し、さらに多くのツル類が越冬できるようになっている。

四万十川流域で、河川を基軸とした生態系ネットワークが形成され、「宝」である生態系と歴史・文化・伝統を活かした産業が営まれている。

ツル類を指標とした四万十川流域での取組から、幅多地域の生態系ネットワーク形成へ取組が展開されている。

ツル類を活かした地域・人づくり

江ノ村地区や森沢・間地区において、農業者の理解・協力を得ながら、ツル類が飛来・越冬することによる農産物の付加価値化が進められている。

地域住民等の理解、協力を得ながら、観光利用でのルールの設定や受け入れ体制の構築が行われ、来訪者の受け入れが始められている。

地域内外への情報発信や普及啓発の継続により、四万十川流域の「つるの里」としての認知度が上がっている。

ツル類の生息を支える自然環境が安定して維持される状況を活かし、地域の事業者との連携・協働による農産物の付加価値化や自然資源を活かした観光の検討が継続されている。

地域内の多様な主体が参加・協働する取組が増えるとともに、地域外の人や組織との連携・協働が始まり、地域の関係人口が増えている。



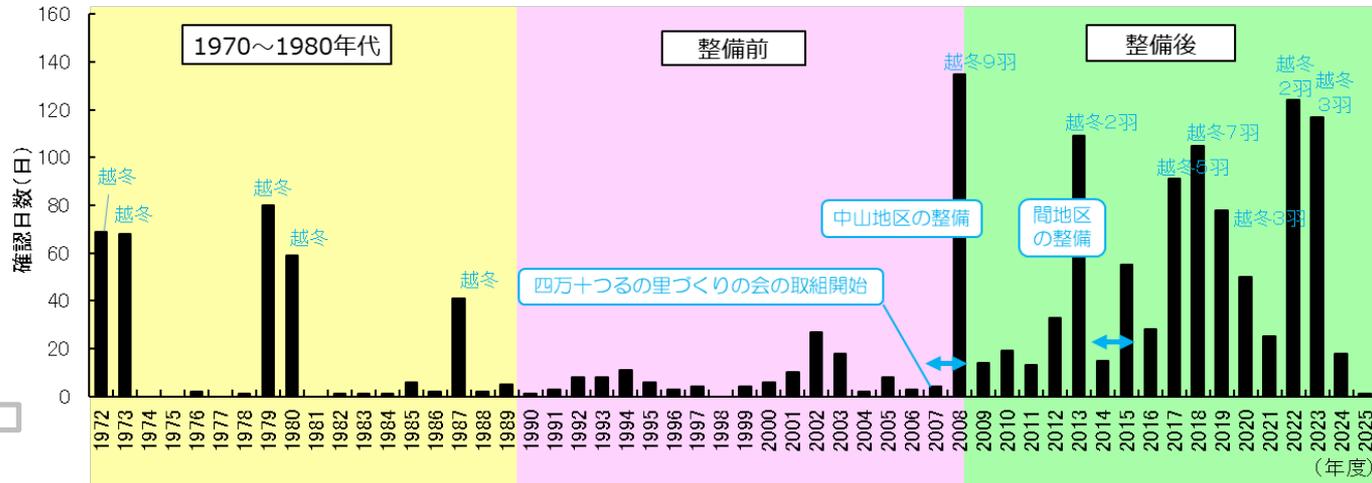
四万十川流域におけるツル類の飛来状況

四万十川自然再生事業の一環として、2002年度から「ツルの里づくり」の取組が行われています。取組を開始してから四万十川市内におけるツル類の確認日数、越冬頻度は増加しています。しかし、飛来するツル類に対し、越冬個体数は未だ少ない状況にあります。

最近では2022年度にナベヅル2羽、2023年度にナベヅル3羽が越冬しましたが、2021年度や2024年度のように確認日数も少なく越冬個体もない年度もまだあります。2025年度は、11月20日に2羽のナベヅルが飛来したのみで、越冬は確認できませんでした。なお、四万十つるの里づくりの会では、越冬の定義を12月に10日以上かつ翌年1月に10日以上確認した場合と定めています。



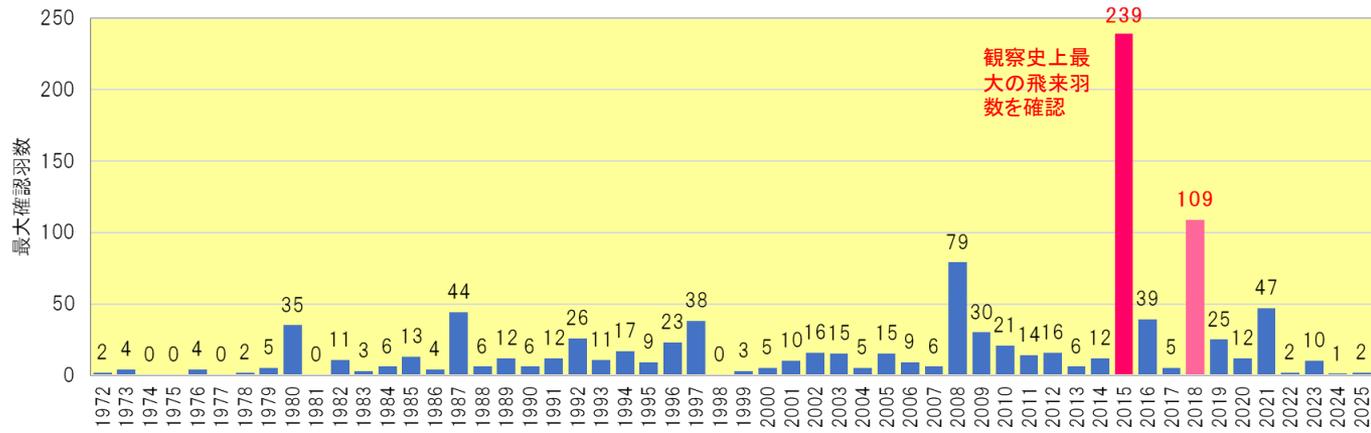
河道内にツル類の暮らせる環境を整備した〇〇〇〇で2013年度に越冬したナベヅル2羽



四万十市におけるツル類の確認日数の推移
※2025年度は2026年1月9日時点の記録



観察史上最大数が飛来した2015年度のナベヅルの状況



四万十市におけるツル類の最大飛来羽数の推移
※2025年度は2026年1月9日時点の記録

ツル類の安定した越冬環境づくりに向け、「ねぐら環境の創出」や「人の利用の調整」に取り組んでいます。

ねぐら環境の創出

主要なねぐらである四万十川の砂州周辺や中筋川沿川が、落ちアユ漁や狩猟等の影響により、ツル類が利用しづらい状況にあるため、11月～2月頃に水田に水を張り、代替ねぐら環境を創出しています。代替ねぐらには、自動撮影カメラを設置し、モニタリングを行っています。また、ツル類を誘引するため、代替ねぐら環境の創出箇所（江ノ村箇所①、間箇所②、実崎箇所）と自然再生事業地（中山箇所、間箇所①）に立体型デコイを設置しています。

希少種情報につき、委員のみ

2025年度の代替ねぐら創出箇所とデコイの設置箇所



立体型デコイ

代替ねぐら環境の創出：江ノ村箇所①

人の利用の調整

四万十市と連携し、「四万十ツルの観察マナー」の普及を行っています。また、見守り活動の試行に向け、実施体制や活動に使用するステッカー、ベストの検討を行いました。今後、ツル類の飛来が確認されれば、見守り活動の試行を実施します。



活動時に車に貼付するステッカー



ベスト

取組内容：ツル類を活かした地域・人づくりの取組

ツル類の安定した越冬環境づくりに向け、「理解と関心の醸成」や「人材の育成・確保」、「ツル類を活かした観光振興」等に取り組んでいます。

理解と関心の醸成

取組を啓発するため、四万十市内外でパネルやナビツルのデコイの展示、体験プログラム「ぱたぱたツル」を行いました。

実施場所	出展先	実施期間
四万十市内	たのしまんとリバーフェスティバル	2025年11月2日
	四万十市役所 1階ロビー	2025年11月20日～12月10日
	第17回四万十つるの里まつり	2025年11月29日
四万十市外	高知県立のいち動物公園での企画展	2025年10月4日～13日
	環境活動見本市	2026年2月14日



四万十つるの里祭り



工作「ぱたぱたツル」

人材の育成・確保

2025年で20年目を迎えた、四万十市立東中筋小学校5・6年生を対象とする「ツルの自然体験学習会」が実施されました。また、ツル類をテーマとした学習の実施校を増やすために、四万十市内の小中学校の校長が集まる校長会で情報提供を行いました。



東中筋小学校でのツルの自然体験学習会

ツル類を活かした観光振興

高知県立幡多農業高校との「ツル類をモチーフとした商品・土産物等の開発」を主とする連携・協働に向け、生徒42名に対して四万十市に飛来するツルに関する授業を行いました。



授業の様子

2025年11月5日～6日に宿毛市へコウノトリ最大9羽、2025年12月2日に四万十市へコウノトリ1羽の飛来が確認されました。

希少種情報につき、委員のみ

コウノトリを契機とした鳴門市の取組について



第8回 四国圏域生態系ネットワーク推進協議会 鳴門市資料

鳴門市の概要(1) 立地



豊かな食財「なると金時」「れんこん」「梨」「鮮魚」「鳴門わかめ」...

鳴門市管内図



鳴門市は、神戸淡路鳴門自動車道を経て京阪神地域からの四国側の玄関口となっています。

市内には、県内屈指の観光施設「渦の道」「大塚国際美術館」や、Jリーグ・徳島ヴォルティスのホームスタジアム、また、市西部には四国八十八ヶ所霊場の1番札所2番札所、第九アジア初演に関する展示を行っているドイツ館等があります。

鳴門市の概要(2) 多様な観光資源



鳴門市のコウノトリたち(1)



父親 ゆうひ
【オス】
識別番号 J0044
2011年生
兵庫県豊岡市出身



母親 あさひ
【メス】
識別番号 J0480
2013生
兵庫県朝来市出身

令和 7 年 生まれ

第一小学校の児童が命名



そら【オス】
識別番号 J0829



心(こころ)【メス】
識別番号 J0830

鳴門市のコウノトリたち(2)

令和 6 年生まれ

大津西小学校の生徒が命名



幸(こう)【オス】
識別番号 J0705



陽(よう)【オス】
識別番号 J0706



凧(なぎ)【メス】
識別番号 J0707



結(ゆう)【メス】
識別番号 J0708

令和 5 年生まれ

堀江北小学校の生徒が命名



はる【メス】
識別番号 J0509



月(つき)【メス】
識別番号 J0510



碧(あお)【オス】
識別番号 J0511

令和 4 年生まれ

板東小学校の生徒が命名



爽(そう)【オス】
識別番号 J0418



大(だい)【オス】
識別番号 J0419



なみ【メス】
識別番号 J0420

令和 3 年生まれ

堀江南小学校の生徒が命名



えがお【メス】
識別番号 J0346



にじ【メス】
識別番号 J0347



花(はな)【メス】
識別番号 J0348

令和 2 年生まれ

一般公募



渦(うず)【オス】
識別番号 J0278



めい【メス】
識別番号 J0279



海(かい)【オス】
識別番号 J0280

令和元年生まれ

大麻中学校の生徒が命名



藍(あい)【メス】
識別番号 J0223



令(れい)【オス】
識別番号 J0224



和(かず)【メス】
識別番号 J0225

平成30年生まれ

一般公募



歌(うた)【メス】
識別番号 J0181



百(もも)【メス】
識別番号 J0182

平成29年生まれ

一般公募



蓮(れん)【オス】
識別番号 J0140



なる【オス】
識別番号 J0141



あさ【メス】
識別番号 J0142

コウノトリブランド認証制度(1)



◎商標登録

ブランド名：**コウノトリおもてなし**

登録商標の区分

- (1) 第29類：冷凍野菜・加工野菜及び加工果実
カレー・シチュー又はスープの素
お茶漬けのり・ふりかけ・なめ物
- (2) 第30類：茶・菓子等・穀物の加工品・米・食用粉類等・調味料
- (3) 第31類：野菜・果実
- (4) 第33類：清酒



「コウノトリおもてなしレンコン」
の出荷を開始。(平成29年9月)

当面の目標

- (1) 出荷量を増量する。
- (2) 仕向先(市場)を増やす。
- (3) れんこんを活用した新たな商品の
認証主体の拡大を目指す。
- (4) 新たな品目として「米」の認証への研究を進める。
- (5) エコファーマー・特別栽培の推進
(板東地区→堀江地区・大津地区まで拡大)

コウノトリブランド認証制度(2)



コウノトリおもてなしれんこん (生鮮)



れんこん葉茶



れんこんパウダー

令和7年度中国四国農政局「ディスカバー農山漁村(むら)の宝」
地方奨励賞に選定されました

JA徳島県徳島北女性部



事業の概要と成果

- 未利用資源の活用と、地域資源を活かした商品開発による地域活性化を目的に「れんこん葉茶」づくりを始め、直売所等での販売により、消費者との直接的なつながりを築いた。
- コウノトリブランドの認証を受けることで地域全体の農産物のブランド向上につながり、他の特産品の販売促進にも寄与した。
- 地域の課題解決やイノベーションの推進者として重要な役割を果たし、リーダーシップを発揮できる場の創出につながっている。

コウノトリをテーマとした経済循環・活動拠点の構築

農産物直売所「えがお」



自然環境や食の大切さを伝える体験型食育



現地(レンコン田等)でのフィールドワーク
観察会やサイクリングとの連動

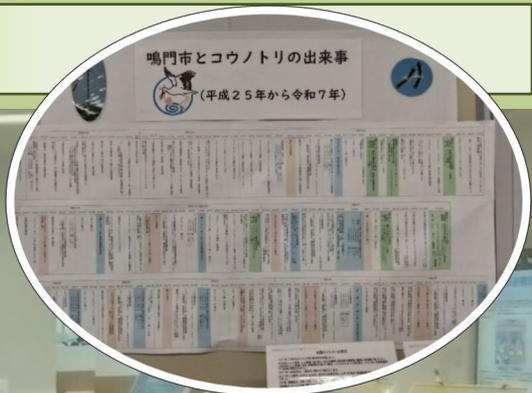


通常の産直施設 + α の魅力



その他の取り組み(1)

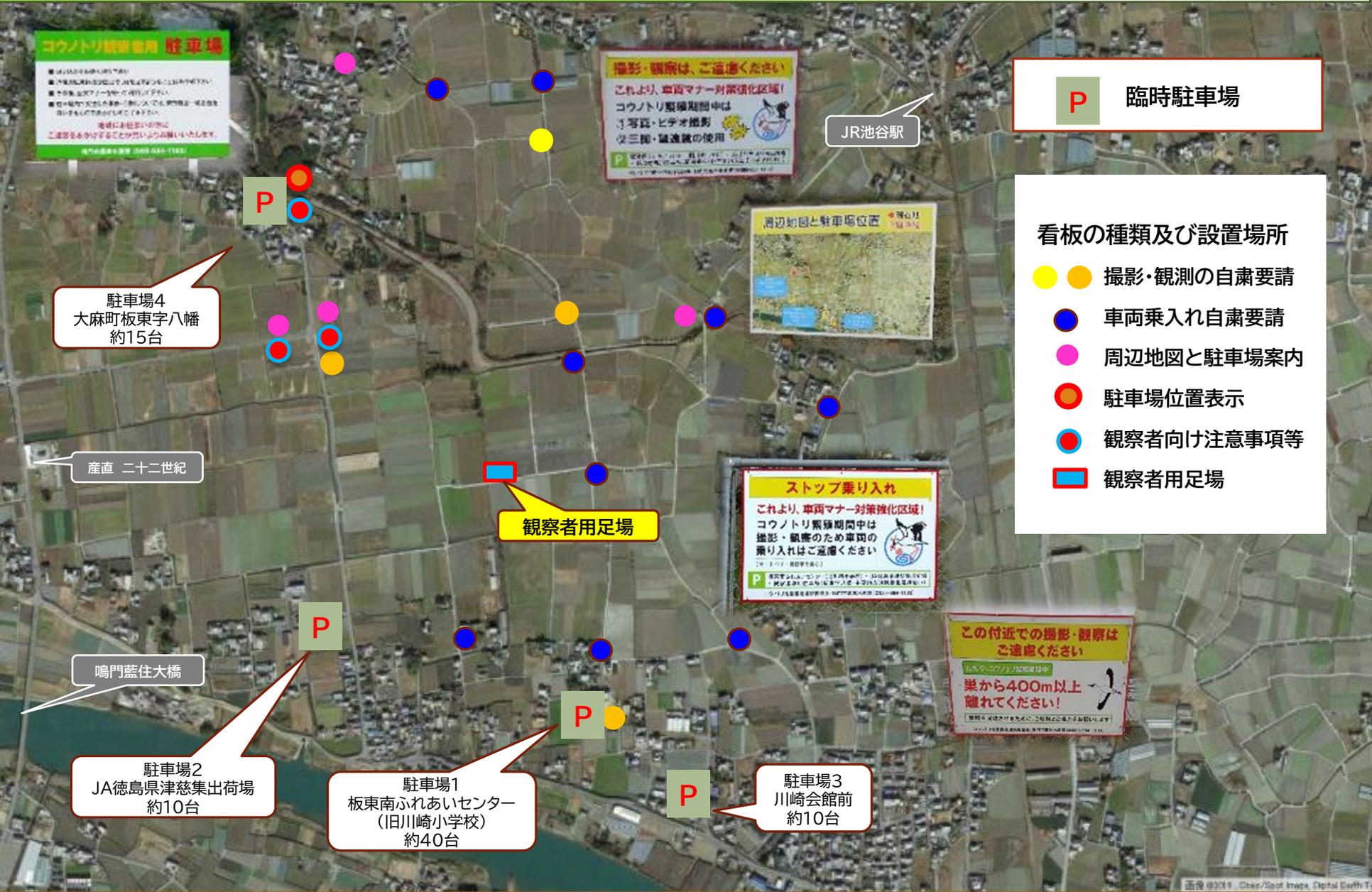
コウノトリに関する展示



先進地(福井県越前市)視察研修



その他の取り組み(2)



P 臨時駐車場

- 看板の種類及び設置場所**
- ● 撮影・観測の自粛要請
 - 車両乗入れ自粛要請
 - 周辺地図と駐車場案内
 - 駐車場位置表示
 - ● 観測者向け注意事項等
 - 観測者用足場

駐車場4
大森町板東字八幡
約15台

観測者用足場

鳴門藍住大橋

駐車場2
JA徳島県津慈集出荷場
約10台

駐車場1
板東南ふれあいセンター
(旧川崎小学校)
約40台

駐車場3
川崎会館前
約10台



ご清聴ありがとうございました

徳島県 鳴門市

徳島県阿南市での関連する取組

徳島県阿南市では、2013年からコウノトリの飛来が記録されています。ツル類は、ナベヅルの飛来が記録されており、那賀川とその周辺で主に確認されています。

希少種情報につき、委員のみ

【2025年の飛来状況】

コウノトリ

- ・令和4年度はコウノトリの飛来が確認されましたが、本年度の飛来はまだ確認されておりません。

希少種情報につき、委員のみ

徳島県阿南市では、四国の市町村としては初となる「生物多様性地域戦略」を策定するとともに、戦略を推進する組織として「生物多様性あなん戦略推進協議会」を設立しています。また、生物多様性に関する普及啓発を行っています。

【計画の策定・協議会の設立】

◆「生物多様性あなん戦略」の策定

・阿南市では、生物多様性保全と持続可能な利用の重要性を浸透させ、市民、事業者、民間団体、行政など様々な取組を進めるため、阿南工業高等専門学校と連携協力のもと「生物多様性あなん戦略」を2019年11月に策定しています。

【取組主体：阿南市、阿南工業高等専門学校】

◆「生物多様性あなん戦略推進協議会」の設立

・「生物多様性あなん戦略」を推進する組織として「生物多様性あなん戦略推進協議会」を2020年2月に設立しています。

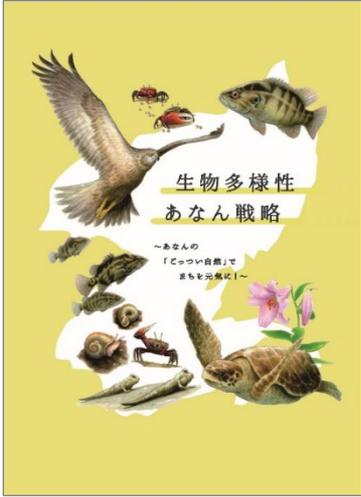
【取組主体：阿南市、阿南工業高等専門学校】

【地域・人づくり】

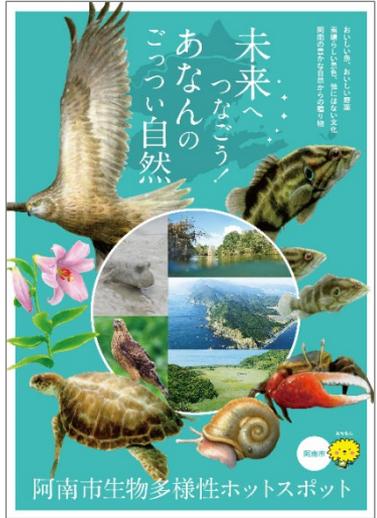
◆「阿南市生物多様性ホットスポット」の普及啓発

・阿南市では、2015年に阿南市の豊かな自然を守るために、みんなで守りたいすばらしい自然を「阿南市生物多様性ホットスポット」として6箇所を選定しており、パンフレット等で市民への普及啓発を行っています。

【取組主体：阿南市】



「生物多様性あなん戦略」



「阿南市生物多様性ホットスポット」のパンフレット

2025年度の取組

那賀川水系流域にて、子どもを対象とした環境学習及び環境保全啓発ポスターの募集をすることを通じ、阿南市の豊かな自然を守り活用する環境保全啓発事業を実施しています。

◆こどもエコクラブの実施

2025年7月3日に、小学校4年生30名を対象とし、那賀川北岸河口干潟に生活する生物観察などの環境学習を実施しました。(協力:国土交通省、建設環境研究所)

◆阿南市環境保全啓発ポスターの募集

小中学生を対象とし、阿南市の生物多様性ホットスポットの保全・活用をテーマにポスター募集を行いました。

◆「阿南市生物多様性フォーラム」の開催

2026年2月21日に第13回阿南市生物多様性フォーラムの開催(予定)

【取組主体:阿南市、阿南工業高等専門学校】



「こどもエコクラブ」生物観察



阿南市環境保全啓発ポスター応募作品

香川県三豊市での関連する取組

希少種情報につき、委員のみ

希少種情報につき、委員のみ

香川県三豊市では、コウノトリの飛来や生息を契機に、地元のNPOが中心となり、コウノトリの定着に向けた生息環境づくりや監視・啓発等の活動を行っています。

【生息環境づくり】

◆コウノトリの採食環境の保全・再生

- ・ [] でコウノトリの保全活動を行っている、コウノトリを守る会が、休耕田で複数箇所にビオトープを整備し、継続して維持管理を行っています。

【取組主体：コウノトリを守る会】

- ・ コウノトリの繁殖期（2～6月頃）は、[] の水位が上がり、採食場としてコウノトリが利用できなくなります。その期間にコウノトリが利用できる環境を創出するため、これまで周辺で整備維持してきたビオトープに加えて、2021年に休耕田で新たなビオトープ整備を行った。ビオトープ整備は、麻環境保全会と連携し、多面的機能支払交付金の支援を得て実施しました。

【取組主体：コウノトリを守る会、麻環境保全会】



休耕田を活用して創出されたビオトープ



発砲注意の看板

◆コウノトリの営巣環境の創出

- ・ 2017年11月、2024年3月に [] で、コウノトリの繁殖用の人工巣塔が、地域住民等の手によって設置されています。

【取組主体：コウノトリを守る会、地域住民】

◆人の利用の調整

- ・ コウノトリを守る会や三豊市によって、啓発看板（観察・撮影についてのマナーや発砲注意等）の設置が行われています。

【取組主体：コウノトリを守る会、三豊市】

- ・ コウノトリを守る会によって、コウノトリの観察者やカメラマンへのマナーを呼びかける監視が行われています。

【取組主体：コウノトリを守る会】



ステッカーを掲げた監視車両



観察マナーに関する啓発看板

＼ コウノトリと共生できる ／

豊かな環境の保存を目指して



希少種情報につき取り扱いにご注意ください

まんのう町のコウノトリ

《親鳥》



個体番号	足環	性別	ふ化年月日	出身地	愛称
J0126 (右)	右足:黄黒 左足:黒黄	オス	2016.4.2 (9歳)	兵庫県 豊岡市	—
J0203 (左)	右足:黄青 左足:黒青	メス	2018.5.7 (7歳)	福井県 越前市	こころ

2023.5.14生まれ



J0671【オス】 ペコ

2024.4.30生まれ



中:J0789【メス】 かりん
左:J0790【メス】 こと
右:J0791【メス】 みなみ

2025.4.25生まれ



左:J0906【メス】 ^{ことか}琴花
右:J0907【メス】
※J0907は巣立ち後に死亡

コウノトリ営巣地位置図

希少種情報につき取扱い注意

希少種情報につき、委員のみ

2025シーズンの記録

● コウノトリの行動 ● 保護活動等

2025(R7)

3.9



定点観測開始

3.24



産卵

4.15



見守る会
意見交換会
(今シーズンの活動について)

4.25



心化

6.6



足環装着

6.9~6.24



観察会
(町内こども園)

6.9~6.30



ヒナの愛称募集

6.29



巣立ち

7.3



J0907死亡

7.16



出前授業
(地元小学校)

8.7



見守る会
意見交換会
(ヒナの愛称決定)

取組内容① 観察者への対応

希少種情報につき取扱い注意



● まんのう町コウノトリを見守る会による現地パトロール
2024.5.14に発足した見守る会(地元住民や日本野鳥の会香川県支部の会員等で構成)が**自主的**にパトロールを実施。
パトロールの際に車に張るマグネットシートを新たに制作。



● 営巣地付近の立ち入りを制限

営巣地付近は、地元住民や関係者以外の立ち入りを制限し、観察場所を指定。
看板を目立つ物に更新し、観察者へ対し周知を強化した。

希少種情報につき、委員のみ



取組内容② 観察会

● こども園を対象に観察会を開催(6月)

子どもたちにコウノトリに興味を持ってもらい、コウノトリが繁殖できるほどの素晴らしい自然環境が整っているまんのう町の魅力を感じてもらおうと、町内6つのこども園を対象に観察会を開催。開催にあたり、日本野鳥の会香川県支部の協力を得た。



【内容】

- 望遠鏡や双眼鏡、カメラに接続したモニターによるコウノトリの観察。
- コウノトリの生態や足環による見分け方について手作りの模型や写真等を使用して説明。

【こども園からの感想】

- 実物大の卵の模型を大事そうに持つ子が多く、大切にしたい優しい気持ちの芽生えを感じました。
- 帰りのバスで川を覗き込んだ園児が「きれいな水がいっぱいからコウノトリさんもここが好きなんかなー」と話していて、行きには気づかなかったことにも目が向いているようでした。
- 「コウノトリを見る時は、コウノトリがびっくりしないように離れたところから見るように」と保護者に伝えている子がいました。

取組内容③ 出前授業

● 地元小学校にて出前授業を開催(7月)

予定していた現地での観察会が悪天候で延期になったため、小学校にて出前授業を開催。開催にあたり、日本野鳥の会香川県支部の協力を得た。



子どもたちが手作りしたコウノトリ

【内容】

- 電子黒板を利用し、画像や動画にてコウノトリの生態や歴史を説明。
- 実物大の模型や写真でコウノトリの大きさや卵の大きさ、巣の大きさなどを説明。

【メリット】

- コウノトリが巣にいない時期でも啓発活動を行うことができる。
- 現地で行う観察会では体験できないクラッタリングの音やヒナの鳴き声を聞くことができる。
- 天候の影響を受けないため、予定が立てやすい。

取組内容④ その他

徳島大学との情報交換

本協議会のネットワークを活用し、徳島大学との情報交換を開始。
鎌田教授のゼミ生が本町の取り組みについて研究。研究成果をフィードバックしてもらうことで、今後の地域づくりに活かすことを目的。

ヒナの愛称を募集(2024より)

まんのう町内において誕生したコウノトリに愛着を持ってもらい、優しく見守ってほしいとの思いから、愛称の募集を実施。町内こども園及び地元小学校を対象に募集し、見守る会にて愛称を決定した。

町広報誌にて啓発活動(2025.10月号)

町民にコウノトリの紹介及び観察時のマナーを周知するとともに、コウノトリが繁殖できる自然豊かな町に誇りを持ってもらい、この環境を保存していくことの大切さを伝えるため広報誌にて特集記事を掲載。



今後の課題

傷病時の対応

- コウノトリの傷病時の対応について香川県の担当部署と協議を行い、連絡体制や対応のフローチャートを作成。
- 検査費用や治療費が高額になった際の費用負担、野生復帰できない個体が発生した際の受け入れ先等について検討が必要となっている。

観察者のマナー向上

- 見守る会のメンバーが自主的にパトロール等を実施しているが、聞いてもらえないケースがある。看板やチラシでの周知に加え、メディアの放送においてもマナーについて周知しているが守ってもらえない。
- パトロールの人数も限られており、また猛暑の中での活動ともなっており、今後の見守り活動について検討していく必要が生じている。

環境保全活動の啓発

- コウノトリを通じて、まんのう町のすばらしい自然環境に関心を持ってもらい、この自然環境を保全していく意識を啓発するための活動を推進していく。
- こども園向けの観察会に加え、小中学生や大人にも体験できる取り組みを今後検討していく。



愛媛県西条市での関連する取組



西条市の地形①

希少種情報につき、委員のみ

西条市は、加茂川の源流から、河口に至るまでの流域が1つの行政区で完結している、日本の中でも珍しい地形を有しています。



西条市の地形②



中山川と加茂川河口に発達した加茂川河口西の干潟は、317ヘクタールで県下の干潟全体の44.9%を占めています。この干潟は**県内最大**で、河口干潟としては**全国でも6番目**の大きさです。

環境省の日本の**重要湿地500**として選ばれており、1989年に当時のIWRB（国際水禽・湿地調査局）日本委員会がまとめた水鳥の生息地であり国際的に重要な湿地として、この加茂川河口及び黒瀬ダムが選定されています。

他にもBird life internationalが選定している**重要鳥類生息地（IBA）**として石鎚山系及び加茂川河口が選ばれています。



西条市において確認されたツル類

- ・ ナベヅル
- ・ マナヅル
- ・ ソデグロヅル



希少種情報につき、委員のみ

令和7年度に確認された
ナベヅル（4羽）

主に**加茂川**、**中山川**とその周辺で確認されています。



西条市において確認されたコウノトリ

平成30年10月以降、1羽のコウノトリが継続して観察されてきました。

令和5年7月21日～22日に、西条市 希少種情報につき、委員のみ において、**1羽**のコウノトリの飛来を確認しています。



西条市で2018年以降に継続して確認されていたコウノトリ



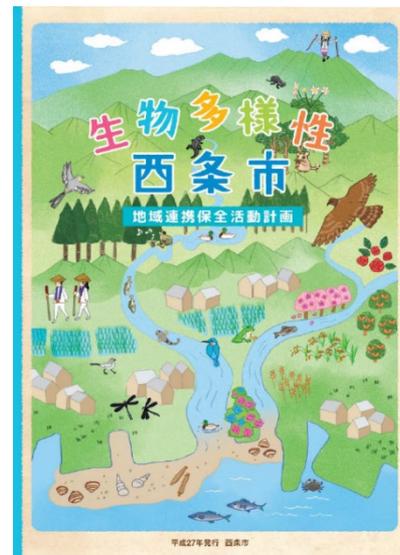
西条市で行われている取組

愛媛県西条市では、ツル類やコウノトリに特化した取り組みは行っていませんが、自然を守るため、地下水を守るため、様々な取り組みを行っています。

「生物多様性西条市地域連携保全活動計画」の普及啓発

2015年に策定した「生物多様性西条市地域連携保全活動計画」で、ツル類の保全を盛り込んでいます。計画では加茂川河口域を重点保全地区に設定し、現状維持を目標としています。計画は西条市のウェブページで公開され、市民への普及啓発が行われています。

【取組主体】西条市



「生物多様性西条市地域連携保全活動計画」

西条市地下水保全協議会の設置

水循環の保全、地下水の保全、涵養及び有効活用について、市民、事業者及び行政が深い理解と連携協働の下、市内全域を一律に保全管理するための方策等を検討、協議することを目的発足した。

- ・育水の普及のため開催した地下水ラボ 水源の森調査隊の実施報告を行った。
- ・塩水化の現状と課題及び硝酸態窒素等地域総合対策業務の報告を行い、協議会員に西条市の地下水の課題を共有した。

【取組主体】西条市、地域住民、地域事業者





西条市で行われている取組

愛媛県西条市では、ツル類やコウノトリに特化した取り組みは行っていませんが、自然を守るため、地下水を守るため、様々な取り組みを行っています。

森林経営管理制度

森林経営管理法（平成30年法律第35号）に基づき、森林所有者への経営管理意向調査及び経営管理権集積計画の作成を行い、整備が行き届かず林業経営にも適さない森林について森林整備(間伐)を実施しています。



①意向調査等

[13,850千円]

1 実施方法

- ①対象森林の抽出（システム保守点検） [委託料 330,000円]
- ②意向調査票の送付、回収、データ整理 [通信運搬費 245,000円]
- ③意欲と能力のある林業経営者への情報提供
- ④西条市森林経営管理推進協議会で施業地を決定
- ⑤現地調査（現地踏査、航空レーザー解析、データ保管料） [委託料 13,000,000円]
[使用料 275,000円]

⑥集積計画策定

2 調査実績及び計画

年度	調査地域	調査面積	集積計画策定面積	備考
R3	丹原町鞍瀬・保井野	1,133ha	68ha	実績
R4	丹原町白坂・余野	1,137ha	166ha	実績
R5	丹原町楠窪・志川・関屋	865ha	123ha	見込み
R6	丹原町田滝・川根、東予地区	1,000ha	120ha	計画

②森林整備

[60,144千円]

1 実施方法

- 西条市森林経営管理推進協議会の検討結果を踏まえて、経営管理権集積計画策定予定森林123haについて、林業事業体に間伐施業を委託
@488,969円/ha×123ha=60,143,184円 [委託料 60,144,000円]

2 整備実績及び計画

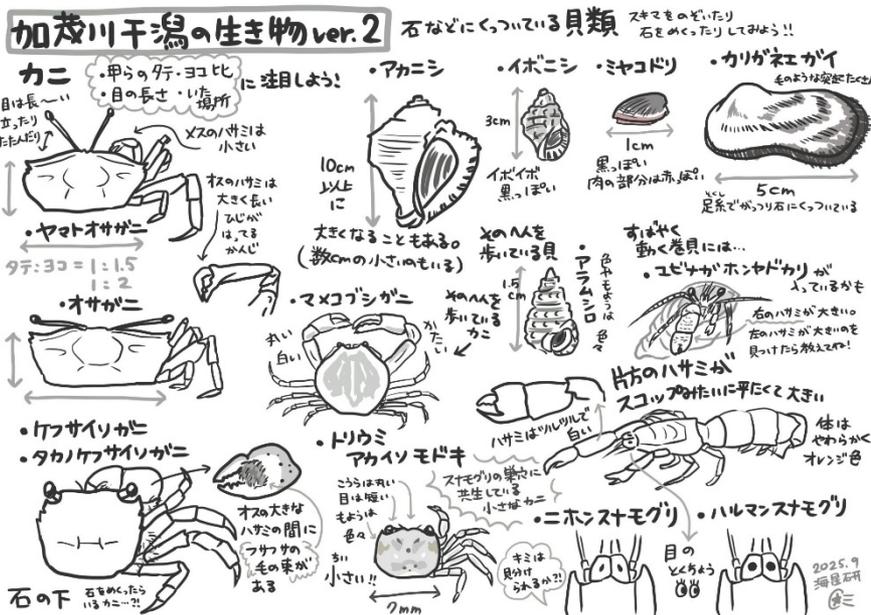
年度	整備地域	整備面積	事業費	備考
R3	河之内	26ha	9,826千円	実績
R4	丹原町鞍瀬・保井野(ほか)	75ha	32,438千円	実績
R5	丹原町白坂・余野(ほか)	103ha	46,943千円	見込み
R6	丹原町楠窪・志川・関屋	123ha	60,144千円	計画

西条市で行われている取組

愛媛県西条市では、ツル類やコウノトリに特化した取り組みは行っていませんが、自然を守るため、地下水を守るため、様々な取り組みを行っています。

自然体験・環境教育の推進

コウノトリ・ツル類の飛来が確認されている加茂川河口において、昨年度とは場所を変えて、9月20日に加茂川河口の生きもの調査を開催しました。



調査結果

別紙 調査結果

	表層(S)		底土中(B)		合計(S+B)	
	発見班数	発見率(%)	発見班数	発見率(%)	発見率(%)	優占度
軟体動物門(巻貝)						
マルウスラタマキビ	2	20	0	0	20	++
レイシガイ	1	10	0	0	10	+
イボニシ	2	20	1	10	30	++
アカニシ	2	20	1	10	30	++
アラムシロ	8	80	6	60	100	+++
軟体動物門(二枚貝)						
カリガネエガイ	3	30	0	0	30	++
マリミエガイ	1	10	0	0	10	+
シオフキ	1	10	7	70	70	+++
ユウシオガイ	0	0	3	30	30	++
ニッコウガイ科	0	0	4	40	40	++
オキシジミ	0	0	3	30	30	++
環形動物門(多毛類)						
チロリ科 Glycera属	0	0	3	30	30	++
チロリ科 不明種	0	0	1	10	10	+
イトム	0	0	1	10	10	+
コアシギボシシノメ	0	0	3	30	30	++
節足動物門(エビ・カニの仲間)						
クルマエビ科	0	0	1	10	10	+
スジエビモドキ	1	10	0	0	10	+
セジロムラサキエビ	1	10	1	10	10	+
テッポウエビ	0	0	1	10	10	+
イソツボウエビ類	2	20	1	10	20	++
ハサミヤコエビ	0	0	1	10	10	+
ニホンズナモグリ	3	30	6	60	80	+++
アナシヤコ類	0	0	1	10	10	+
エビナガホンヤドカリ	8	80	3	30	90	+++
トリウミアカイソモドキ	1	10	6	60	60	++
ケフサイソガニ	1	10	0	0	10	+
タカノケフサイソガニ	1	10	1	10	20	++
ヒメアサハラガニ	1	10	1	10	20	++
コメツキガニ	2	20	4	40	50	++
チゴガニ	0	0	6	60	60	++
オサガニ	2	20	3	30	50	++
ヤマトオサガニ	2	20	8	80	80	+++
その他						
ヒラムシ類(扁形動物)	1	10	2	20	20	++
ヒモムシ類(紐型動物)	0	0	2	20	20	++
ヒモイカリナマコ(棘皮動物)	0	0	1	10	10	+
ナベカ(魚類)	1	10	1	10	20	++

調査地域: 加茂川左岸 龍神社前
 調査日時: 2025年9月20日 15:00~17:00
 10班(ひと班1~4名)で実施
 合計(S+B)は、SとBを区別せずに集計した発見率(何班が発見できたか)
 優占度: +++ 優占種(発見率70%以上)
 ++ 普通種(70%未満、10%あるいは発見者数2以上)
 + 少数種(10%未満あるいは1班だけの発見)

愛媛県西予市での関連する取組

愛媛県西予市

愛媛県南部に位置し、豊かな緑に覆われた美しい山々と、青く深く広がる海、広大な大地の中で、多彩な自然を持ち合わせている西予市は、2013年9月にジオパークに認定されています。また、海拔0mから1,400mと恵まれた地形の中で、本州の農産物を全て取ることが出来るのも魅力の一つです。



須崎海岸



宇和盆地



リアス海岸 みかんの段畑



大野ヶ原（四国カルスト）

西予市の保護活動の始まり

- 西予市では平成18年から国の特別天然記念物であるコウノトリが飛来するようになり、環境省レッドリストの絶滅危惧Ⅱ類、種の保存法の国際希少野生動植物種に指定されているナベヅルやマナヅルの飛来も見られるようになってきました。
- そのような中、いずれも希少種であることから、地域住民から保全・保護の声が高まり、市の諮問で平成21年度に有識者や地元住民らによる「ツルと人の共生創造委員会」が設立され、その保全・保護の方針に関わる答申書を経て、平成22年度に田園ロマンの里づくり推進委員会設置要綱を策定し、ツルやコウノトリが飛来する地域の代表者や環境保護に関する活動を行うもの、農業団体関係者、学識経験者を含む委員会を設置しました。

平成21年 ツルと人の共生創造委員会による答申により、ツル・コウノトリを保全してくこととなった。

平成22年 田園ロマンの里づくり推進委員会設置以降、推進委員会を中心に、保護活動を実施。

協力団体

行 政	西予市
市民団体	ツル・コウノトリと共生する山田の会 宇和コウノトリ保存会 伊賀上ロマンの里づくり会 一般社団法人ノヤマカンパニー 公益財団日本野鳥の会 日本野鳥の会愛媛
大学	愛媛大学社会共創学部
学校	石城小学校
企業	株式会社四電工

希少種情報につき、委員のみ

希少種情報につき、委員のみ

希少種情報につき、委員のみ

愛媛県西予市

愛媛県西予市では、西予市や愛媛県、日本野鳥の会、日本野鳥の会愛媛、地域団体・地域住民、企業等、多様な主体が関わり、コウノトリ・ツル類の生息環境づくりと地域・人づくりに関する取組を行っています。

【計画の策定】 令和2年度～

◆「西予市ツル・コウノトリと共生するまちづくり計画」

- ・西予市では、ツル・コウノトリと共生するまちづくりを目指し、「西予市ツル・コウノトリと共生するまちづくり計画」の策定に向けた検討を進めています。
- ・令和4年4月に基本構想（ビジョン）が完成し、今年度には実行計画完成予定。

【取組主体】

愛媛大学、西予市



策定委員会の様子

【生息環境づくり】

◆コウノトリの営巣環境の創出

- ・コウノトリの繁殖用の人工巣塔（地域住民や企業の協力のもと西予市宇和町3か所に計4基）が設置されています。
- ・これらの巣塔は、毎年10月頃に株式会社四電工より無償で点検作業を行っていただいています。

【取組主体】

宇和コウノトリ保存会、コウノトリ・ツルと共生する山田の会



(株)四電工による巣塔点検の様子

愛媛県西予市

愛媛県西予市では、西予市や愛媛県、日本野鳥の会、日本野鳥の会愛媛、地域団体・地域住民、企業等、多様な主体が関わり、コウノトリ・ツル類の生息環境づくりと地域・人づくりに関する取組を行っています。

【生息環境づくり】

◆ツル類のねぐら環境の保全・再生

・地域団地により、町内のビオトープの保全をはじめ、田んぼでの冬期湛水や、ツル類を呼び込むためにデコイの設置、ツルの鳴き声を流す取組等が行われています。

また、周囲は有害鳥獣用の防護柵により安全性を確保するとともに、監視カメラを設置し、日本野鳥の会愛媛、西予市と映像の確認を行っています。

⇒ここ数年は安定して、同じ場所をねぐらとして利用しています。

【取組主体】

宇和コウノトリ保存会、コウノトリ・ツルと共生する山田の会、日本野鳥の会愛媛、西予市

◆ツル渡来重点エリアの設置

・採食場の環境整備の一環として、主な採食場となる圃場があるエリアをツル渡来重点エリアとして設定し、渡来時期には農作業等のやむを得ない場合を除いて、なるべく通行をご遠慮いただくようお願いします。

【取組主体】

西予市、地域住民



デコイ設置の様子



渡来重点エリア看板設置の様子

愛媛県西予市

愛媛県西予市では、西予市や愛媛県、日本野鳥の会、日本野鳥の会愛媛、地域団体・地域住民、企業等、多様な主体が関わり、コウノトリ・ツル類の生息環境づくりと地域・人づくりに関する取組を行っています。

【地域・人づくり】

◆自然体験、環境教育の推進

- ・日本野鳥の会愛媛、西予市の共催で、地元石城小学校においてツル・コウノトリに関連した環境学習として、年数回にわたり、ビオトープや田んぼでの生き物観察、ツル類の観察会、デコイ設置体験等を実施しています。
- ・ツルを通じて、西予市の石城小学校と山口県周南市の八代小学校・高知県四万十市の東中筋小学校との交流が行われました。

また、今年度も地元石城保育園において園児を対象にツル類の観察会を行いました。

【取組主体】

日本野鳥の会愛媛、石城小学校、石城保育園、西予市



石城小学校 ビオトープでの生き物観察会の様子



石城保育園 ツルの観察会の様子

愛媛県西予市

愛媛県西予市では、西予市や愛媛県、日本野鳥の会、日本野鳥の会愛媛、地域団体・地域住民、企業等、多様な主体が関わり、コウノトリ・ツル類の生息環境づくりと地域・人づくりに関する取組を行っています。

【地域経済への貢献】

◆ふるさと納税（返礼品）に登録

・「つるの寝どこまい」

ふるさと納税担当課と、ツルがねぐらとしている圃場の所有者による出品登録。
初年度は試しで460kgを出品したところ、すぐに品切れになる盛況ぶりであったため、来年度増量予定。
今後は、採食場となっている地区からの出品に向けての取り組みへの協力が必要と考えています。

・「ツルのねぐら採食場観察ツアー」

「西予市ツル・コウノトリと共生するまちづくり計画」基本構想（ビジョン）の基本方針の2、「ツル・コウノトリと共に暮らせる豊かさの享受」に記載されているとおり、環境保全だけでなく、観光などの産業振興とも結びつき、社会と環境と経済とが恵みを共有できる、持続的で循環的な地域を目指すため、ツルの観察ツアーを登録しました。
今のところ、申込はないですが、ふるさと納税以外の通常のツアーも具体的に検討している段階です。
今後に期待しましょう。

【取組主体】

西予市、地域住民、西予市観光物産協会



【ふるさと納税】先行予約 新米 令和7年
ふるさと納税
13,000円～
送料無料
☆ 高付を申し込む
☆ お気に入り

すぐに品切れ「つるの寝どこまい」



【ふるさと納税】選べる内容 ぐつるのねぐら・…
ふるさと納税
50,000円～
送料無料
☆ 高付を申し込む
☆ お気に入り

「ツルのねぐら採食場観察ツアー」

四万十市での関連する取り組みについて

第8回 四国圏域生態系ネットワーク推進協議会

令和8年2月16日



四万十市におけるツル類の歴史と飛来分布

希少種情報につき
取扱い注意

1

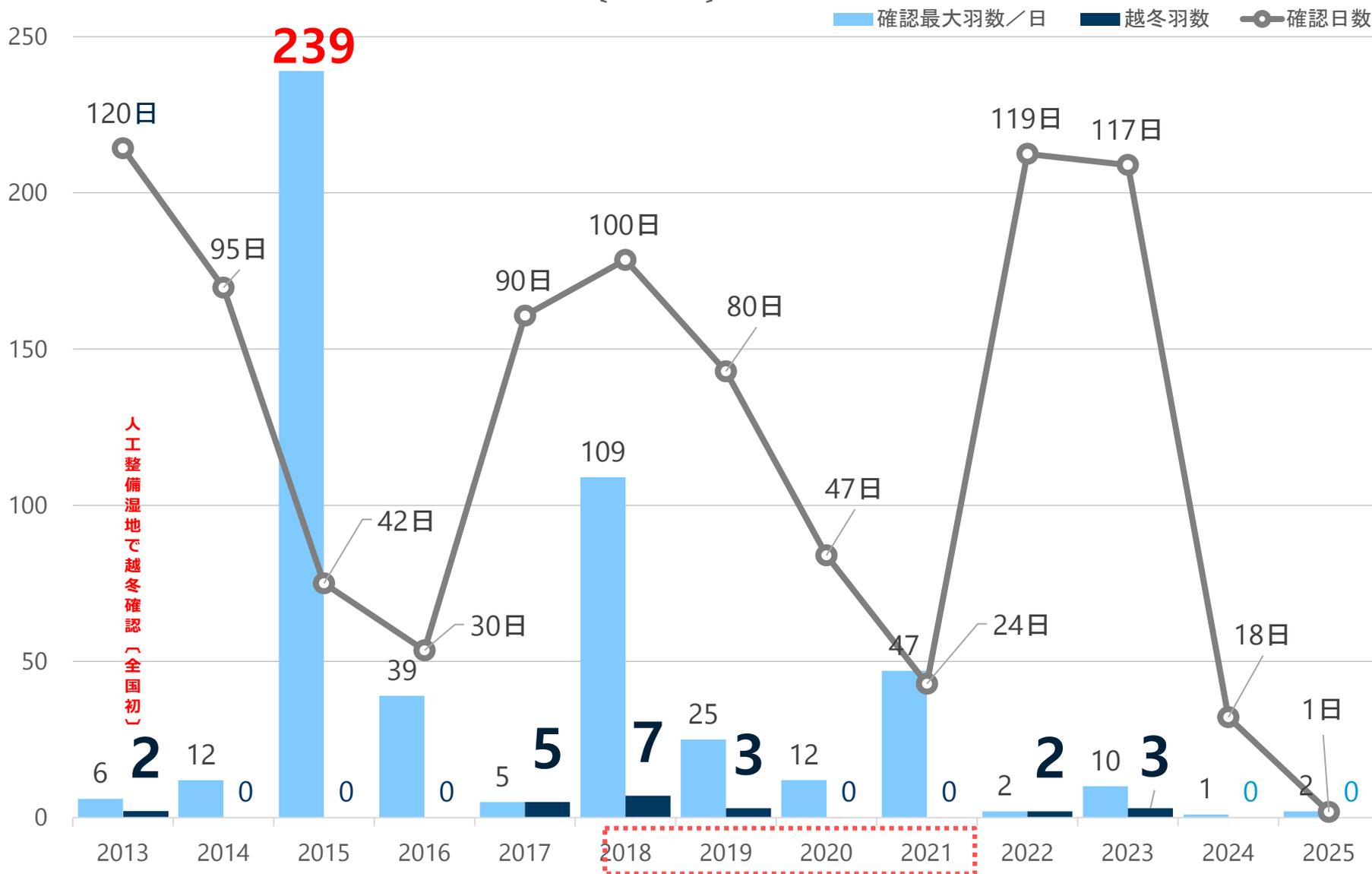
希少種情報につき、委員のみ



高知県 四万十市

近年における飛来状況

図表 1 ツル類の確認最大数・越冬数・確認日数の推移[直近10年]



史上最大数が飛来した2015年

希少種情報につき取扱い注意

3

2015年11月16日

希少種情報につき、委員のみ

提供：四万十つるの里づくりの会



発砲音に驚き顔を上げ周囲を見渡ししながら警戒している様子

2024年11月30日

希少種情報につき、委員のみ

提供：四万十つるの里づくりの会

令和2年より毎年このデコイ箇所には飛来している

2025年11月20日

希少種情報につき、委員のみ

提供：高知野鳥の会



初飛来したナベツル2羽

今年度(2025年度)の飛来状況

希少種情報につき取扱い注意

6

2025年12月2日

希少種情報につき、委員のみ

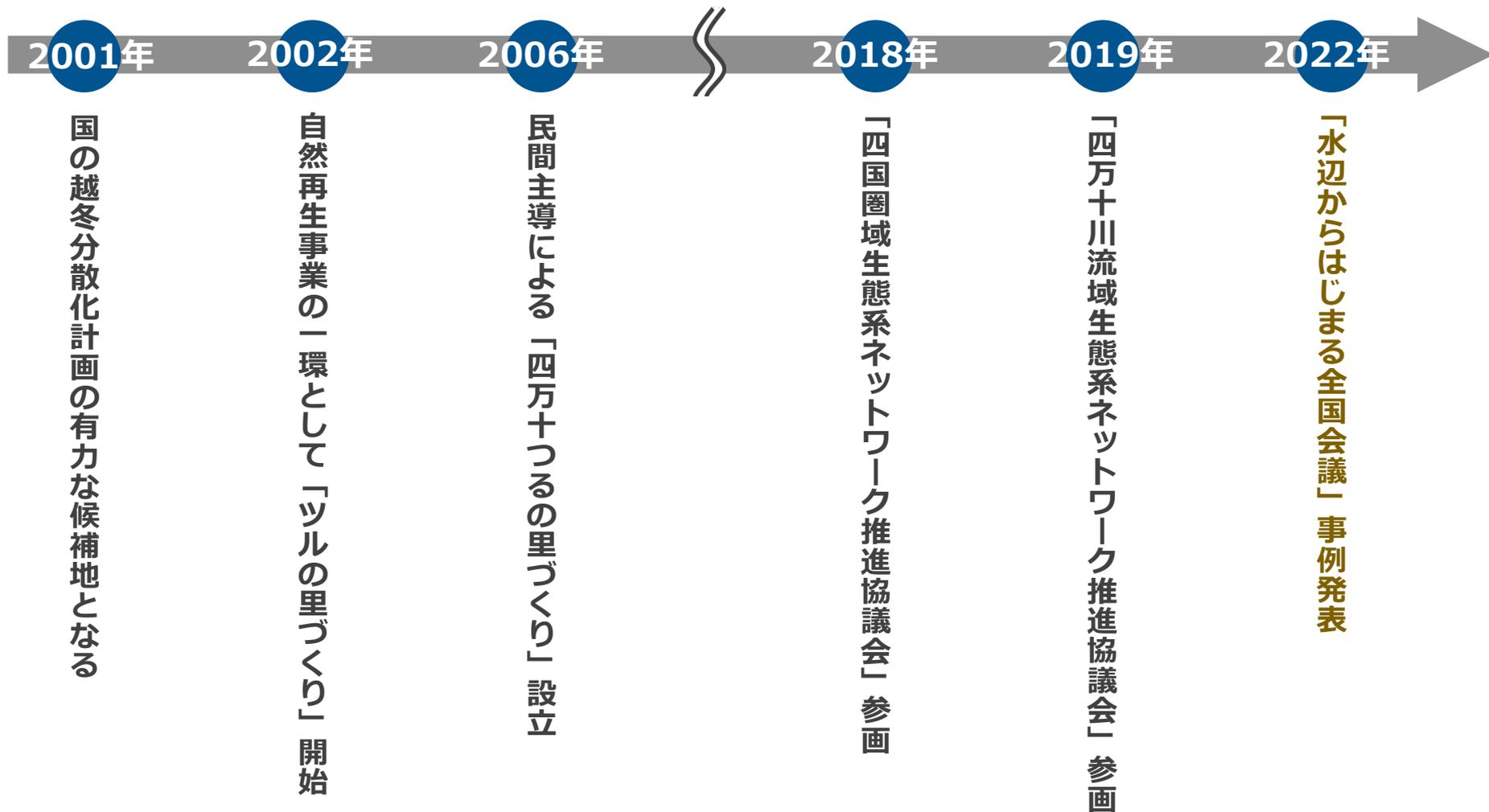
提供：四万十つるの里づくりの会



9年ぶりに四万十市に飛来したコウノトリ

四万十市における取り組みの概要

四万十市では、2002年度から国土交通省中村河川国道事務所が推進する四万十川自然再生事業の一環として、ツル類の越冬地環境の整備を目標とする「ツルの里づくり」が始まりました。2006年に民間主導で「四万十つるの里づくりの会」が設立され、周辺の自然環境の保全・整備を促進し、地域の活性化を目的として、関係主体の連携した取り組みが続けられています。



1. ねぐら環境の保全・再生

中筋川の自然再生事業箇所（中山箇所と間箇所）について、ツル類のねぐら環境となるよう、中村河川国道事務所により、継続して維持管理が行われています。また、自動撮影カメラを設置し、モニタリングをおこなっています。

取組主体→国土交通省中村河川国道事務所

江ノ村箇所について、ツル類のねぐら環境となるよう、四万十つるの里づくりの会により、水田での冬期湛水が試行されています。2022年度からは実崎箇所、2025年から新たに間箇所にもデコイを設置し、水を張りました。また、中村河川国道事務所により、湛水箇所に自動撮影カメラを設置しモニタリングをおこなっています。

取組主体→四万十つるの里づくりの会・国土交通省中村河川国道事務所

2. 人の利用の調整

2021年度に「四万十ツルの観察マナーチラシ」を作成し、地区への回覧により周知を図る取り組みをおこなっています。また、観察マナーに関する記事を市広報11月号やLINEを活用し発信しており、理解と関心を深めるための取り組みをおこなっています。

取組主体→四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会、四万十市

3. ツルの飛来調査

毎年10月下旬から翌年の2月頃まで、毎日巡回して飛来状況を確認しています。その結果、ツルの行動体系および環境づくりに対する課題などが明確になってきました。

取組主体→四万十つるの里づくりの会、高知野鳥の会、国土交通省中村河川国道事務所

1. 自然体験・環境教育の推進

四万十つるの里づくりの会と中村河川国道事務所が主催で、地元の東中筋小学校の生徒を対象とした「ツルの自然体験学習会」が2025年10月21日に開かれ、学習会では、ツルの生態に関する講義や、屋外でのデコイを設置などがおこなわれています。また、11月21日、2026年1月17日に学習発表会などを行っています。

取組主体→四万十つるの里づくりの会・国土交通省中村河川国道事務所



「ツルの自然体験学習会」の様子

2. 取り組みの情報発信

今年で17回目となる「四万十つるの里祭り」が2025年11月29日に開催されました。また、「四万十つるの里祭り」の開催と合わせて、ツルの観察ツアーもおこなわれました。

取組主体→四万十つるの里づくりの会・国土交通省中村河川国道事務所



「四万十つるの里祭り」

四万十つるの里づくりの会のウェブサイトや会報誌「四万十つるだより（定期発行）」により、四万十市へのツル類の飛来状況や保全に関連する取り組みについての情報発信がおこなわれています。

取組主体→四万十つるの里づくりの会

2025年10月4日から13日にわたり、つるの里づくりを紹介する企画展が県立のいち動物公園で開催されました。また「四万十市のツルパネル・写真展」などを4回開催しました。

取組主体→四万十川流域生態系ネットワーク推進協議会
四万十つるの里づくりの会



ご清聴ありがとうございました

